

# 秦野市みどりの基本計画 素案

表紙にネポたんを置く場合、「生物多様性地域戦略」の名称を併記するなど、計画の名称について検討が必要です。



ネイチャーポジティブキャラクター  
ネポたん

- 生物多様性を守り回復に転じるための活動をしている、ネイチャーポジティブ・レンジャー。
- 秦野の山の帽子、秦野名水の体、大地のブーツ、谷戸のアイドル・ホトケドジョウのしっぽを持った里山の妖精。
- 山の帽子は四季によって色が変わる、こともある。

令和7年(2025年)2月4日 現在



# 秦野市みどりの基本計画 目次

|                       |           |
|-----------------------|-----------|
| <b>第1章 計画策定の考え</b>    | <b>1</b>  |
| 1 計画の概要及び目的           | 1         |
| (1)計画の概要              | 1         |
| (2)計画の背景と目的           | 1         |
| 2 計画の位置付け             | 4         |
| 3 計画の構成               | 5         |
| 4 計画の期間               | 6         |
| (1)期間                 | 6         |
| (2)年次                 | 6         |
| 5 「緑」と「みどり」の定義        | 7         |
| 6 生物多様性               | 8         |
| (1)生物多様性とは            | 8         |
| (2)生態系サービス            | 8         |
| (3)生物多様性の4つの危機        | 9         |
| (4)外来種                | 10        |
| <b>第2章 みどりの現況及び課題</b> | <b>11</b> |
| 1 本市の概況               | 11        |
| (1)みどりに関する自然的状況       | 11        |
| (2)みどりに関する社会的状況       | 35        |
| (3)前計画の進捗状況           | 42        |
| (4)市民のみどりに対する意識       | 50        |
| 2 みどりに関する課題とその対応への視点  | 53        |
| <b>第3章 計画の推進</b>      | <b>56</b> |
| 1 計画の基本方針             | 56        |
| (1)基本理念及びみどりの将来像      | 56        |
| (2)基本方針               | 57        |
| (3)施策の方向              | 60        |
| 2 緑地の保全及び緑化の目標        | 61        |
| (1)計画のフレーム            | 61        |
| (2)計画の目標水準            | 61        |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| (3)里山の保全再生整備の目標 ..... | 62 |
| (4)生物多様性に関する目標 .....  | 62 |

# 第1章 計画策定の考え

## 1 計画の概要及び目的

### (1)計画の概要

「緑の基本計画」とは、市町村が策定の主体となり、地域の実情に応じたきめ細かな緑のまちづくりを行うために策定する都市の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画です。

都市の緑地に関する計画として、「緑のマスタープラン※」・「都市緑化推進計画」がありましたが、環境問題に関する関心の高まりや自然とのふれあいに対するニーズなどに対応し、豊かさを実感できる自然と人間が共生できるみどりあふれる良好な都市環境を形成していくため、都市における緑とオープンスペースの整備・保全にかかわる施策をより総合的なものとして推進していくことが必要になってきました。そこで、平成6年(1994 年)6月の都市緑地保全法の一部改正により、「緑のマスタープラン」と「都市緑化推進計画」の内容を統合した「緑の基本計画」(市町村が策定する「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」の通称)が位置付けられました。

平成7年(1995 年)以降、市民緑地制度や緑地管理機構制度など、住民・事業者による自発的な都市の緑の確保に対する取り組みを支援する制度の強化が図られています。また、平成16年(2004 年)の都市緑地保全法の一部改正では、都市公園法の一部改正とともに、緑地の保全・緑化及び都市公園の整備を総合的に推進するための制度の創設・拡充などの措置が講ぜられ、名称が都市緑地法となりました。これにより「緑の基本計画」は、都市公園、緑地保全、都市緑化を統合する総合的な基本計画となりました。

※「緑のマスタープラン」

昭和 58 年に都市計画に関する緑地の保全及び緑化の推進を目的に策定された緑化推進計画

### (2)計画の背景と目的

本市は、これまで県立丹沢大山自然公園・丹沢大山国定公園の指定促進、「緑のマスタープラン」・「はだのグリーンプラン※」の策定に基づく都市緑化施策の推進、みどりの保全・創造に取り組んできました。しかし、市街地の拡大や産業の集積などで都市化は着実に進展し、身近にふれることのできる市街地の中の緑は次第に失われていく傾向がありました。

そこで平成 20 年に「秦野市緑の基本計画」が策定され、当時の本市が目指す都市像「みどり豊かな暮らしよい都市(まち)」の実現に向けて、緑や緑地の保全、再生、創出を目的に、総合的かつ効果的な施策の展開を推進してきました。

令和3年(2021年)3月に「秦野市緑の基本計画」を一部改定し、緑や緑地の

保全・再生・創出、生物多様性の保全等を目的に総合的かつ効果的な施策の展開を推進してきました。

計画策定以後、国においては自然共生社会の実現、環境負荷が小さいカーボンニュートラル都市の実現、幸福度(Well-being)向上等に向け、令和5年(2023 年)9月に「グリーンインフラ推進戦略2023」の改定、令和6年(2024 年)11 月に「都市緑地法等の一部を改正する法律」の施行、令和6年(2024 年)12 月に「都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針」(以下、「緑の基本方針」という。)の告示、令和7年(2025 年)4月に「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」(以下、「地域生物多様性増進法」という。)など、みどりに関する新たな方針が示されています。

本市においては、令和3年(2021年)3月策定の「秦野市総合計画(はだの2030プラン)」において、「水とみどりに育まれ 誰もが輝く 暮らしよい都市(まち)」をまちづくりの都市像として定め、「名水の里の豊かな自然と共生し安全・安心に暮らせるまちづくり」を基本目標の一つとして掲げています。

令和7年(2026 年)2月の令和7年度施政方針において「ネイチャーポジティブ宣言」を行い、令和7年(2026 年)●月には「ネイチャーポジティブ認証自治体※」として認証されました。

これらの社会情勢の変化や本市を取り巻く状況の変化を踏まえ、本計画は、秦野市総合計画(はだの2030プラン)に示される緑豊かなまちづくりを進めていく総合的な計画として、今後の緑や生物多様性の保全・再生・創造の目標と方針を定めることを目的として策定しました。

また、平成20年(2008 年)に制定された「生物多様性基本法」では、国の「生物多様性国家戦略」の策定義務や、地方公共団体の「生物多様性国家戦略」を基本とした、「生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画」(以下「生物多様性地域戦略」という。)の努力義務が規定されました。本計画は、生物多様性基本法に基づく「秦野市生物多様性地域戦略」を兼ねる計画として策定しました。

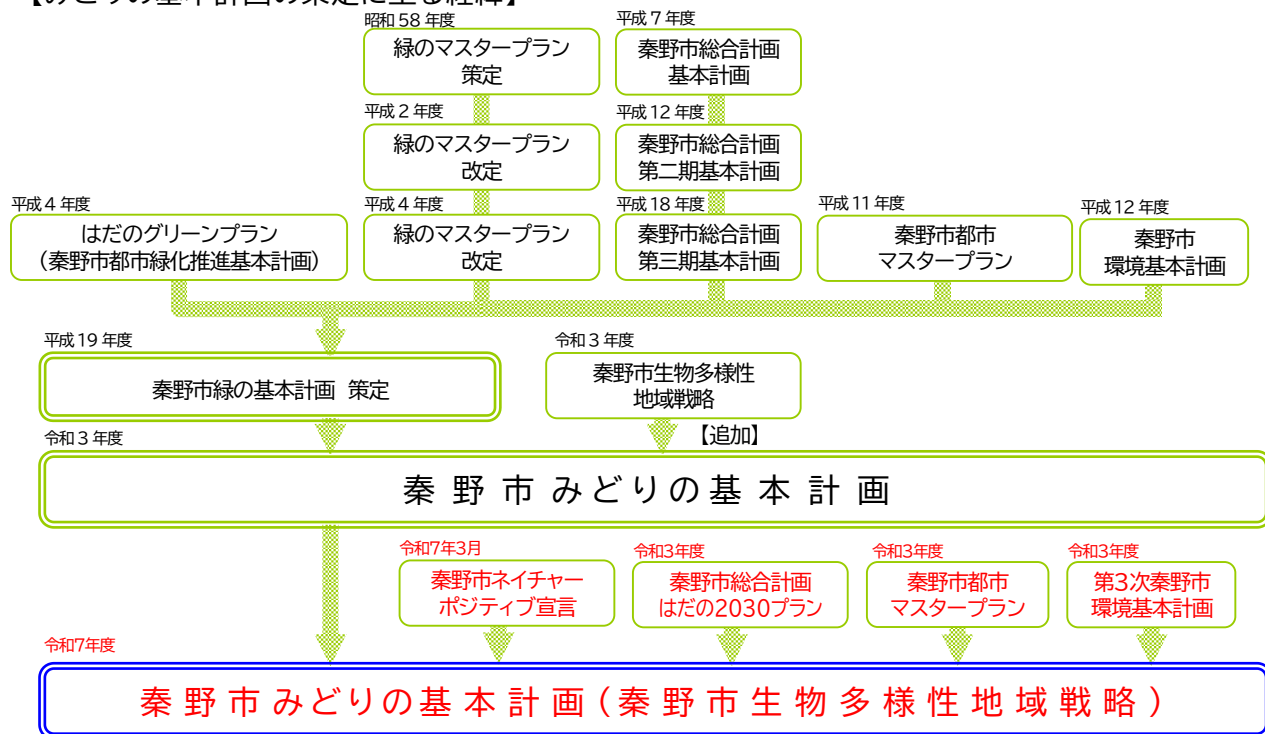
※「はだのグリーンプラン」

平成 4 年に公共公益施設の緑化、民有地の緑化推進等の都市計画外での緑化に関する緑地の保全及び緑化の推進を目的に策定された緑化推進計画

※「ネイチャーポジティブ認証自治体」

日本自然保護協会が「日本版ネイチャーポジティブアプローチ」を全国で展開するために、地域の自然を活かしてネイチャーポジティブな地域づくりを推進する自治体を認証し、その活動を支援する認証制度

## 【みどりの基本計画の策定に至る経緯】



### ネイチャーポジティブキャラクター ネポたん

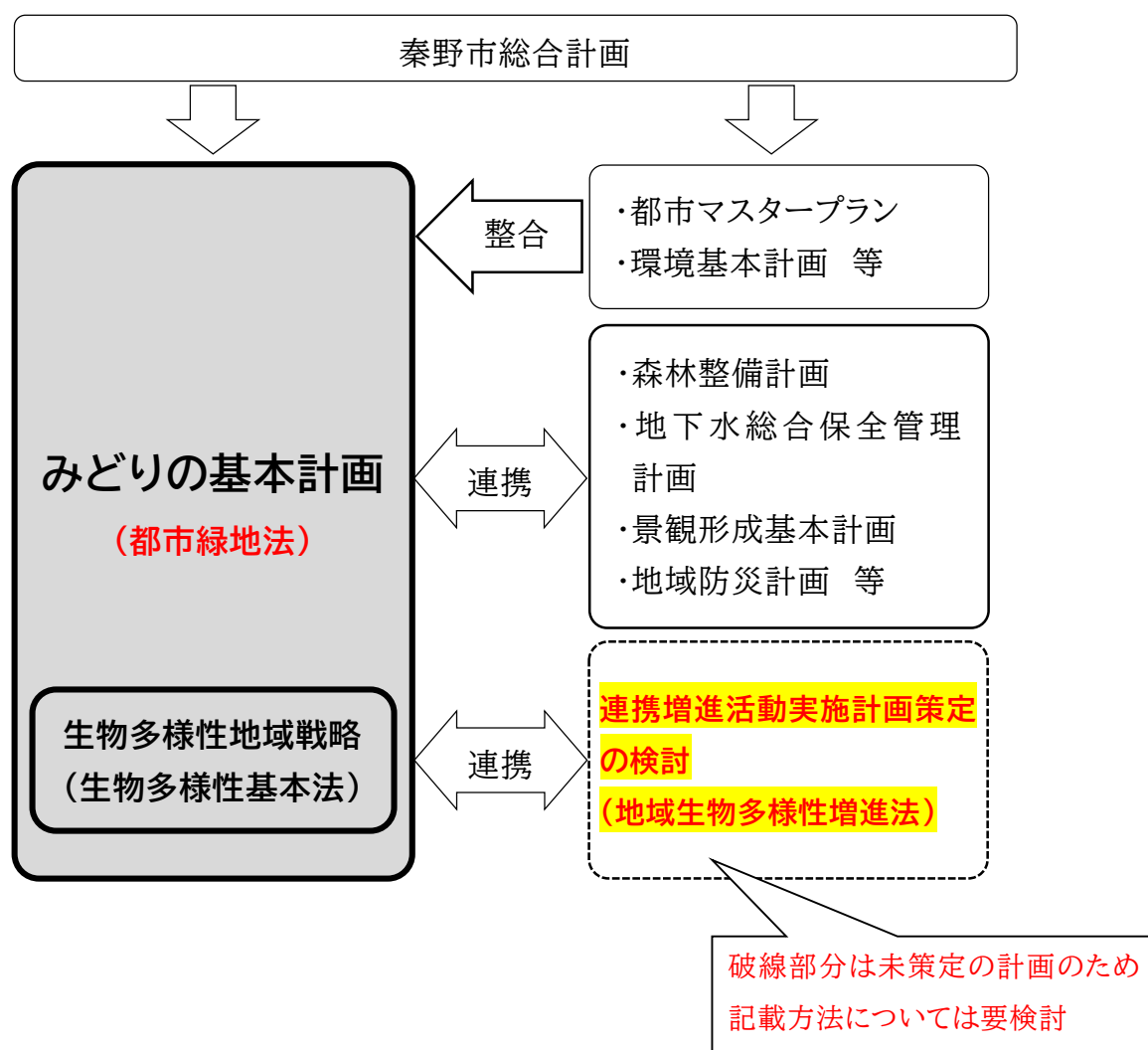
- 生物多様性を守り回復に転じるための活動をしている、ネイチャーポジティブ・レンジャー。
- 秦野の山の帽子、秦野名水の体、大地のブーツ、谷戸のアイドル・ホトケドジョウのしっぽを持った里山の妖精。
- 山の帽子は四季によって色が変わる、こともある。



## 2 計画の位置付け

「秦野市みどりの基本計画」は、緑地や生物多様性の保全及び緑化の推進に関する事業を展開するため、市民・事業者・行政が一体となって取り組むみどり豊かなまちづくりの目標・指針となるものです。本計画は、「秦野市総合計画」を上位計画とし、「秦野市都市マスタープラン」及び「秦野市環境基本計画」等の関連計画と整合・連携し、都市の緑地や生物多様性の保全及び推進に関する総合的な計画として位置付けられるものです。

### 【計画の位置付け】



### 3 計画の構成

本計画は、秦野市の緑と生物多様性の現況と課題を整理し、緑と生物多様性の将来像の実現に向けた施策の推進をしていくため、次の6章で構成します。

#### 第1章 計画策定の考え

計画の趣旨、目的、期間などの基本的な事項を示す。

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1 計画の概要及び目的 | 4 計画の期間        |
| 2 計画の位置付け   | 5 「緑」と「みどり」の定義 |
| 3 計画の構成     |                |

#### 第2章 みどりの現況及び課題

秦野市の「緑」と「みどり」の現況を整理・把握し、その課題を明らかにする。

- 1 本市の概況(みどりに関する自然的状況、みどりに関する社会的状況、前計画の進捗状況、市民のみどりに対する意識)
- 2 みどりに関する課題

#### 第3章 計画の基本方針

みどりの将来像、目標水準及び配置方針を定める。

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 基本理念及びみどりの将来像 | 3 緑地の配置計画 |
| 2 緑地の保全及び緑化の目標  |           |

#### 第4章 緑地の保全及び緑化推進のための施策

みどりの将来像の実現に向けて、計画推進のための施策を示す。

- 1 施策の体系
- 2 緑地の保全及び緑化推進のための施策

#### 第5章 地区別の方針

地区別のみどりの方針を示す。

- |        |       |        |       |
|--------|-------|--------|-------|
| 1 本町地区 | 3 東地区 | 5 大根地区 | 7 西地区 |
| 2 南地区  | 4 北地区 | 6 鶴巻地区 | 8 上地区 |

#### 第6章 計画の推進体制

計画の推進体制を示す。

- 1 計画の推進体制

## 4 計画の期間

本計画の期間は、10 年を1つの区切りとして捉え、5年毎に中間評価を実施します。

ただし、関連する諸計画の見直しや社会情勢の変化に応じ、必要な場合は見直します。

### (1)期間

令和8年(2026 年)から令和 17 年(2035 年)

計画期間については、審議会等での検討が必要です

### (2)年次

中間年次 令和12年(2030 年)

目標年次 令和17年(2035 年)

※ 構想的な計画(目標年次)は、年単位を使用し、具体的な計画(実施計画)は、年度を使用します。

|                     | R8<br>2026                | R9<br>2027 | R10<br>2028 | R11<br>2029 | R12<br>2030 | R13<br>2031       | R14<br>2032 | R15<br>2033 | R16<br>2034 | R17<br>2035 |
|---------------------|---------------------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 本計画                 | 秦野市みどりの基本計画(秦野市生物多様性地域戦略) |            |             |             |             |                   |             |             |             |             |
|                     |                           |            |             |             | 中間<br>評価    |                   |             |             |             |             |
| 秦野市の<br>上位・<br>関連計画 | 秦野市総合計画はだの 2030 プラン       |            |             |             |             | 秦野市総合計画 次期計画      |             |             |             |             |
|                     | 秦野市都市マスタープラン              |            |             |             |             | 秦野市都市マスタープラン 次期計画 |             |             |             |             |
|                     | 第3次秦野市環境基本計画              |            |             |             |             | 第4次秦野市環境基本計画      |             |             |             |             |
|                     |                           |            |             |             |             |                   |             |             |             |             |

## 5 「緑」と「みどり」の定義

本計画において「緑」とは、施設緑地及び地域制緑地といった緑地として用います。計画の推進に掲げる緑地の確保目標水準や配置は、「緑」となります。

一方、「みどり」とは、樹林地、草地、水辺地等の自然が豊かで、動植物が生息し、自然と人との共生する空間等の総合的な環境として用います。

みどりのイメージ



## 6 生物多様性

### (1)生物多様性とは

約46億年にわたる地球の歴史の中で、地球上の生物は、様々な環境に適応し、進化し、多種多様な生物が生まれてきました。これらの生物には、一つひとつに個性があり、地球上に生きる全ての生物が、直接的または間接的に支え合って生きています。これが「生物多様性」です。

この生物多様性が、私たちに豊かな自然の恵みをもたらしています。

生物多様性条約では、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つの多様性をあげています。

#### ア 生態系の多様性

山、樹林地や河川など、様々な環境が存在し、それぞれの環境に適した生物により、多様な生態系が存在することです。

#### イ 種(種間)の多様性

様々な動物、植物、細菌等の生物が生息・生育していることです。

#### ウ 遺伝子の多様性

同じ種類の動物や植物でも、地域により形態や模様、生態などが異なります。このように遺伝子のレベルで多様な違いがあることです。

### (2)生態系サービス

私たちの生活に欠かせない酸素や水、食料などは、生物多様性が私たちに与えてくれる恵みであり、この恵みを「生態系サービス」として、次の4つに分類しています。

#### ア 供給サービス

豊かな土壌によって作られる農作物、石油などの燃料や木材、薬品の提供など、私たちの生活に重要な資源を供給するサービスです。

#### イ 調整サービス

植物や土壌などによる水質改善、森林などの生態系による気候の調整や自然災害の防止・緩和と言った、環境を安定・制御するサービスです。

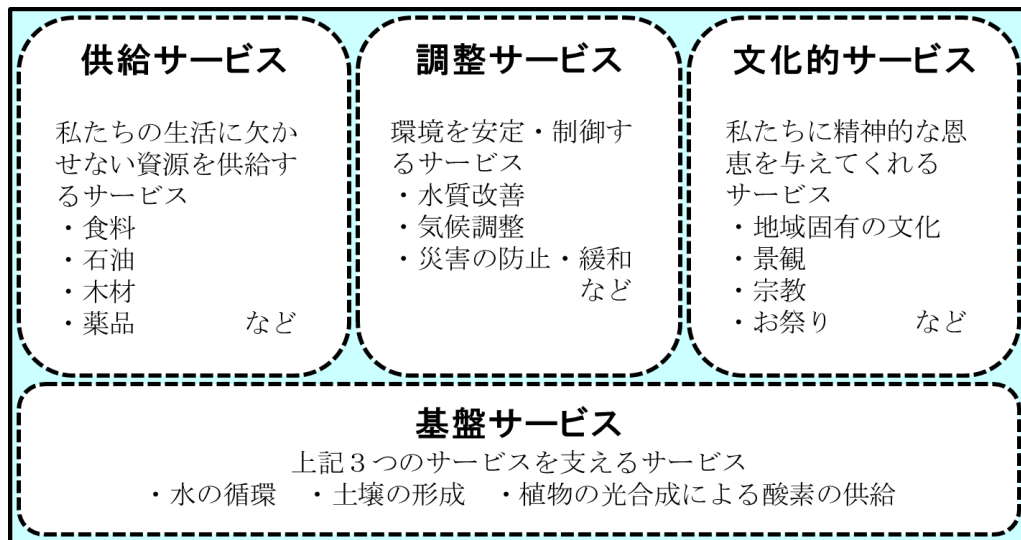
#### ウ 文化的サービス

国や地域ごとに、生態系や気候は様々です。それらの違いは、地域固有の文化や景観、習慣などを育み、私たちの生活に精神的な恩恵を与えているサービスです。

#### エ 基盤サービス

水の循環、土壌形成、植物の光合成など、他の3つの生態系サービスを支えるサービスです。

## 【生態系サービス】



### (3) 生物多様性の4つの危機

私たちの生活に様々な恵み(生態系サービス)を与えてくれる生物多様性には、4つの危機があるとされ、人間の活動による影響が主な原因であると考えられています。種の絶滅速度は、自然状態での速度に比べて遥かに早く、多くの生物が危機に瀕しています。

#### ア 第1の危機(人間の活動による影響)

高い成長量が期待できる人工林への拡大造林、開発に伴う森林伐採や、埋め立て工事等による生息地の破壊など。

#### イ 第2の危機(自然に対する人間の働きかけの縮小による影響)

エネルギー構造の変化による薪炭林の管理不足や里地里山の荒廃※など。

#### ウ 第3の危機(人間により持ち込まれたものによる影響)

人間による活動で、外来種や化学物質などが持ち込まれることによる生態系への影響など。

#### エ 第4の危機(地球環境の変化による影響)

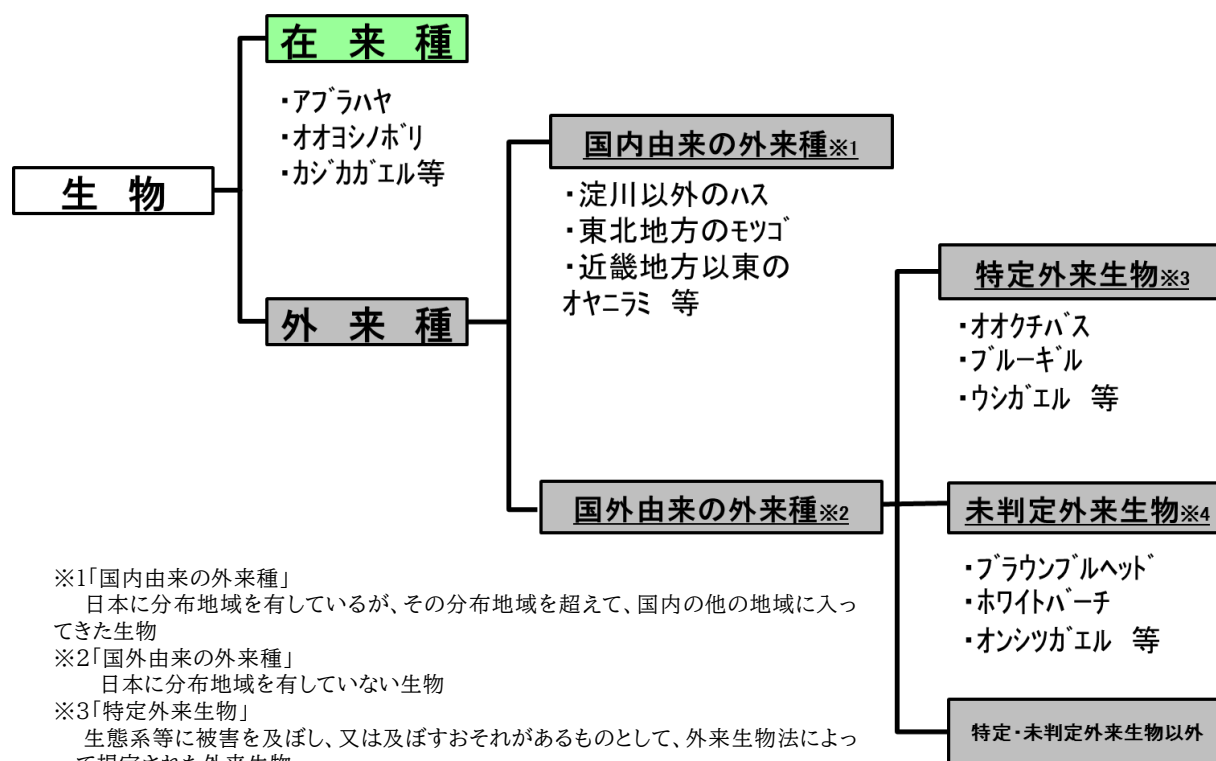
地球温暖化、極端な気象現象などの環境の変化により、それに適応できない生物や生息・生育場所の移動ができない生物への影響など。

※「里地里山の荒廃」

本市においても、里地里山の荒廃で、シカやイノシシ等の農作物への被害や、ヤマビルの生息地の拡大が問題とされています。

#### (4)外来種

本来の分布地域に生息していた生物(在来種)に対し、人間の活動等により人為的に持ち込まれた生物を外来種としています。



※1「国内由来の外来種」

日本に分布地域を有しているが、その分布地域を超えて、国内の他の地域に入ってきた生物

※2「国外由来の外来種」

日本に分布地域を有していない生物

※3「特定外来生物」

生態系等に被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法によって規定された外来生物

※4「未判定外来生物」

生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない生物



オオクチバス



ブルーギル



ウシガエル

出典:環境省ホームページ「外来種写真集」

## 第2章 みどりの現況及び課題

### 1 本市の概況

#### (1) みどりに関する自然的状況

##### ア 自然

##### (ア) 地形

本市は、神奈川県央の西部に位置し、東西約13.6km、南北約12.8km、面積103.76km<sup>2</sup>で、市の中心部から新宿へ小田急電鉄により約70分、東名高速道路や国道246号によっても都心と直結した県央の中核都市の一つです。

本市の自然環境については、その地形に特徴が示されています。北方には標高1,200m～1,400mの丹沢山地があり、南方には標高200mほどの渋沢丘陵が東西に走っています。中央の秦野盆地は、東西6.5km、南北4kmの断層盆地で、北西から南西に傾斜し、海拔80～350mあたりになだらかな広がりを見せて、県下で唯一の典型的な盆地を形成しています。

また、水無川・葛葉川・金目川・四十八瀬川は、丹沢の稜線に端を発し、丹沢山地からの多量の砂礫を運び込んで堆積させ、これにより複合扇状地を形成し、その上を厚く火山灰土が覆っています。



##### (イ) 水系

本市の河川は、その盆地の中央部に水無川・葛葉川、東部に金目川、西部に四十八瀬川、盆地の南縁に沿って室川、弘法山の山裾を東に大根川が流れています。盆地の扇状地中央部を流れる水無川は、その名のとおりに降水時以外は水量が少なく、特に冬の渇水期には、扇中央部で流水が無くなることもあります。丹沢山地に降った雨水は扇頂より地下に浸透して地下水となり、帯水層の中をゆっくり流動しながら盆地南の扇端部で湧水群を形成しています。この

ような地形的特性から、秦野盆地は、盆地全体が「天然の水がめ」を形成しているといわれています。

## (ウ) 地質

地質的には、新第三紀のグリーンタフ造山運動による緑色凝灰岩が山体を形成し、その上部を火山灰土が覆っています。緑色凝灰岩の層は丹沢層群と呼ばれ、安山岩や玄武岩質火山岩類よりなっています。これらの火成岩は地向斜運動による海成作用を通して形成され、暗緑色を呈することから緑色凝灰岩と呼ばれています。断層による陥没で形成された秦野盆地は、上部を厚く立川ローム層(関東ローム層)で覆われています。

## (I) 気象

気候は、海洋性気候の影響を受け、降霜・降雪は少なく、太平洋側は温暖帯に属しており、年間の平均気温は15.9℃(平成 26 年～令和5年秦野市消防本部調べ)で比較的温暖です。また、盆地の北部では、山岳の影響を受けて盆地特有の雨や風の局地現象がみられることもあります。また、降雨は夏期多雨、冬期小雨型で、年間の平均降水量は1,642.9mm(平成 26 年～令和5年秦野市消防本部調べ)となっています。

## 秦野市の地勢図



## イ みどりの現況

### (ア) 丹沢山地

丹沢山地は、標高800m付近を境として、上部はブナ帯、下部はシイ・カシ帯に分かれていましたが、現在ではシイ・カシ帯の自然林はほとんど見られず、二次林やスギ・ヒノキの人工林が大半を占めています。

野生鳥獣は、本州産の獣類のほとんどが生息しており、鳥類も亜高山帯の野鳥から猛禽類というように多種類が生息し、首都圏にあるにもかかわらず野生生物の宝庫といえます。

### (イ) 里地里山

里地里山は、山間部と市街地の中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、谷戸、草原等で構成される地域で、本市では、葉タバコ栽培に伴い創出され、市街地を取り囲むように存在します。コナラ・クヌギを中心とした二次林や湧水を利用した谷戸田等の水辺には、絶滅のおそれのある種(希少種)の多くが生息しています。

昭和59年(1984年)に葉タバコ栽培が終焉したことにより、人の手が入らなくなり荒廃化が進んだ里山の再生に向け、地元住民・NPO・ボランティア団体・企業と協働による事業展開をしています。

### (ウ) 水辺

名水百選「秦野盆地湧水群」、関東大震災の際にできた自然湖である震生湖、古くから地域住民に親しまれている今泉湧水池などの地下水を水源とする水辺があります。これらの点的な緑地空間と、線的な緑地空間である市内6河川が、それぞれにビオトープの役割を担い、市街地を取り巻く面的な丹沢山地及び渋沢丘陵と連携し、「みどりネットワーク」を形成しています。

水辺緑地保全として、今泉湧水池とその周辺を「今泉名水桜公園」に整備しました。

### (I) 生物

平成元年4月に住民団体等によるホタルの保全活動が盛んで、身近に観察できる生息地が市内に残っていることから、このホタルの生息地が環境庁(現環境省)「ふるさといきものの里」として選定されました。

ホタルが生息できる水辺環境の保全のため、ホタル工法による用水路整備やホタルの生息できる公園「いまいずみほたる公園」の整備をしました。

また、秦野市みどり条例に基づき、希少な又は貴重な野生の生物が成育し、又は生息している水辺等を保護するため、「生き物の里」を7箇所指定しています。

現行計画第4章3生物調査からこちらへ移動しました。

## ウ 生物調査

人間の活動や環境の変化により、生物多様性が失われつつあります。貴重な生物多様性を保全するためには、私たちを取り巻く環境の中で、どのような生物が生息しているのか、その現状を把握する必要があります。

地域環境を代表する指標種<sup>※1</sup>は、現状を把握するための「ものさし」として活用することができます。今回実施した生物調査では、平成22年(2010 年)に実施した生物調査<sup>※2</sup>を参考に指標種や調査地を選定しました。

生物調査の結果は、過年度の調査結果と比較することで市内の環境保全や変化状況を把握し、今後の施策検討における基礎材料にすることを目的としています。

※1「指標種」

秦野市生物多様性地域連携保全活動計画の指標種(平成 22 年 4 月)を参考に、雑木林、水田でそれぞれ 25 種選定し、指標種とは別に外来種・要注意種も確認項目に加えました。河川の指標種については、相模川及び酒匂川水系で 5 年毎に実施されている神奈川県民参加型調査の動植物 57 種にアメリカザリガニ、ウシガエルなどの外来種を追加しました。

※2「平成22年(2010 年)に実施した生物調査」

秦野市自然環境調査報告書(環境保全活動拠点 19 箇所の結果報告)

## (7) 調査方法

2年間をワンサイクルとして以下の方法で調査を実施し、指標種の有無を記録しました。

### a 調査地点

市内を代表する自然環境を 3 つに区分し、各地点での調査を実施

- A 市内6地区の水田・雑木林:26 箇所(水田12箇所、雑木林14箇所)の植物・動物
- B 市街化地区の公園、神社:10 箇所(公園6箇所、神社4箇所)の水田及び雑木林の植物・動物
- C 河川:15 箇所(大根川、金目川、葛葉川、四十八瀬川、水無川、室川)

※C 河川における調査は市職員で実施

### b 調査期間

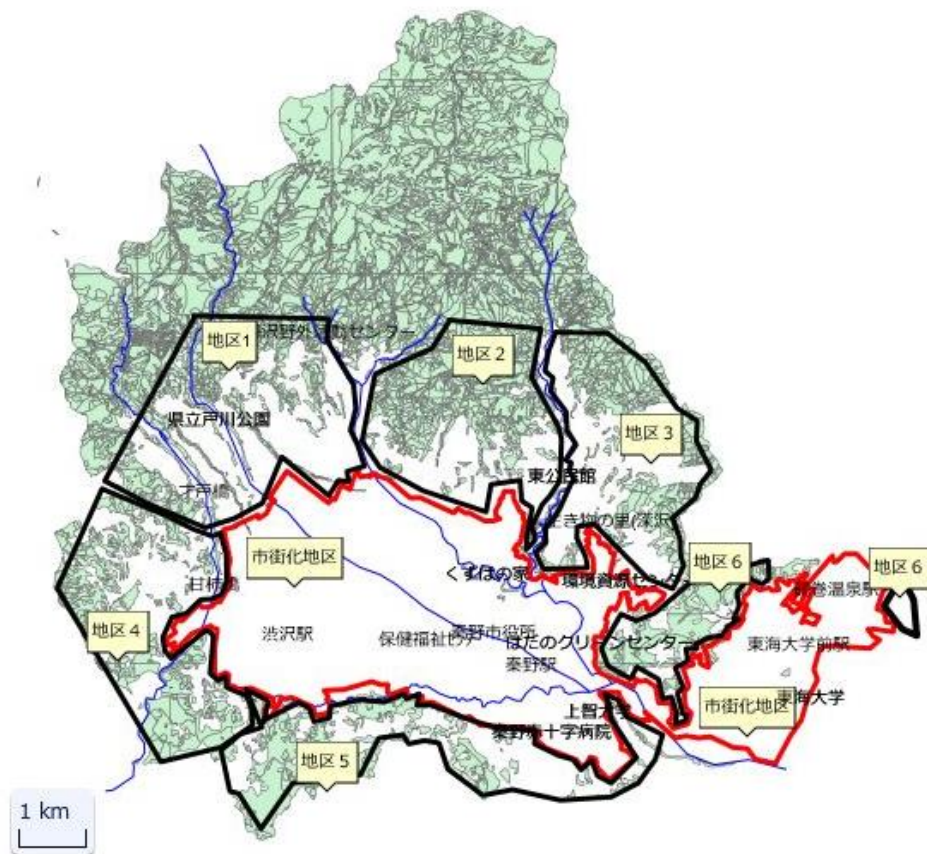
令和5年4月から令和6年3月まで

※季節や昼夜など条件を変えて複数回以上実施

### c 確認方法

- ・ 指標植物の調査は、植物が確認できる時期を見計らい1年で2回の調査を実施。水田の場合は稲作が行われている場合があるため、稲に影響が出ないよう、畦から覗き込み調査を行う。
- ・ 指標動物の調査は、植物同様1年で2回の調査を実施。タモ網、捕虫網を用いての捕獲調査や飛翔個体の目視や鳴き声を頼りに調査を実施。

(参考)調査地点一覧



水田



雑木林



公園・神社



河川



<水田及び雑木林の調査場所>

| No. | 水田<br>No. | 雑木林<br>No. | 調査地名                            | 備考(調査場所)    |
|-----|-----------|------------|---------------------------------|-------------|
| 1   | 1         |            | 菩提 :わさびや茶園下流水田                  | 水田植物、水田動物   |
| 2   | 2         |            | 東田原1:田原ふるさと公園                   | 水田植物、水田動物   |
| 3   | 3         |            | 名古屋1:NPOドン会活動拠点                 | 水田植物、水田動物   |
| 4   | 4         |            | 名古屋2:道栄塚、窪地の湿地、放棄水田             | 水田植物、水田動物   |
| 5   | 5         |            | 柳川1 :柳川生き物の里                    | 水田植物、水田動物   |
| 6   | 6         |            | 堀西 :才戸橋から甘柿橋間の水田(ヤマモゴルフガーデン東)   | 水田植物、水田動物   |
| 7   | 7         |            | 千村 :若竹の泉付近の水田                   | 水田植物、水田動物   |
| 8   | 8         |            | 渋沢1 :渋沢生き物の里                    | 水田植物、水田動物   |
| 9   | 9         |            | 今泉1 :震生湖、秦野の雑木林を守る会管理地          | 水田植物、水田動物   |
| 10  | 10        |            | 今泉2 :小藤川湧水地                     | 水田植物、水田動物   |
| 11  | 11        |            | 北矢名1:南蛇久保、弘法山南傾斜、水田             | 水田植物、水田動物   |
| 12  | 12        |            | 鶴巻 :水田、舞台                       | 水田植物、水田動物   |
| 13  |           | 1          | 横野 :萩山林道沿い、林道入り口付近、戸川公園         | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 14  |           | 2          | 東田原2:東京電力パワーグリッド新秦野変電所周囲の雑木林    | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 15  |           | 3          | 羽根 :羽根林道、アイエサール管理地              | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 16  |           | 4          | 名古屋1:NPOドン会活動拠点                 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 17  |           | 5          | 蓑毛 :蓑毛自然観察の森                    | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 18  |           | 6          | 名古屋3:名古屋里山を守る会活動拠点 第一里山         | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 19  |           | 7          | 柳川2 :上公民館から太平洋ゴルフクラブ入り口の雑木林     | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 20  |           | 8          | 渋沢2 :頭高山付近、渋沢小学校学習林             | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 21  |           | 9          | 渋沢1 :渋沢生き物の里                    | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 22  |           | 10         | 今泉1 :震生湖、秦野の雑木林を守る会管理地          | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 23  |           | 11         | 南が丘 :立野緑地                       | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 24  |           | 12         | 上大槻 :菅原神社                       | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 25  |           | 13         | 曾屋1 :弘法山馬場道北斜面綿羊の里付近            | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 26  |           | 14         | 曾屋2 :弘法山公園入口から浅間山駐車場までのハイキングコース | 雑木林植物、雑木林動物 |

<公園・神社の調査場所>

| No. | 公園<br>No. | 神社<br>No. | 調査地名               | 備考(調査場所)              |
|-----|-----------|-----------|--------------------|-----------------------|
| 1   | 1         |           | 公園1 :カルチャーパーク運動公園  | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 2   | 2         |           | 公園2 :曾屋公園(旧 曾屋配水場) | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 3   | 3         |           | 公園3 :今泉あらい湧水公園     | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 4   | 4         |           | 公園4 :今泉名水桜公園       | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 5   | 5         |           | 公園5 :いまいずみほたる公園    | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 6   | 6         |           | 公園6 :おおね公園         | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 7   |           | 1         | 神社1 :出雲大社相模分祠      | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 8   |           | 2         | 神社2 :曾屋神社          | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 9   |           | 3         | 神社3 :白笹稻荷神社        | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 10  |           | 4         | 神社4 :健速神社          | 雑木林植物、雑木林動物           |

# (参考)指標種一覧

(水田・雑木林の指標種一覧)

| No. | 指標種       |             |           |              |
|-----|-----------|-------------|-----------|--------------|
|     | 水田        |             | 雑木林       |              |
|     | 植物        | 動物          | 植物        | 動物           |
| 1   | オモダカ      | ヤマアカガエル     | カンアオイ類    | アオスジアゲハ      |
| 2   | ハラオモダカ    | ニホンアカガエル    | ヒトリシズカ    | モンキアゲハ       |
| 3   | ミズオオバコ    | トウキョウダルマガエル | フタリシズカ    | ジャコウアゲハ      |
| 4   | ヒガンバナ     | シュレーゲルアオガエル | テンナンショウ類  | オオムラサキ       |
| 5   | ガマ類       | ツチガエル       | ホウチャクソウ   | キマダヒカゲ類      |
| 6   | コナギ       | ニホンイモリ      | ホトトギス     | クロコノマチョウ     |
| 7   | タガラシ      | ドジョウ        | ヤマユリ      | ハラビロカマキリ     |
| 8   | キツネノボタン類  | ホトケドジョウ     | キンラン      | フキバッタ類       |
| 9   | ワレモコウ     | タイコウチ       | ギンラン      | ハヤシノウマオイ     |
| 10  | アカバナ      | ミズカマキリ      | エビネ       | クツワムシ        |
| 11  | チョウジタデ    | ヒメアメンボ      | シュンラン     | エゾツユムシ       |
| 12  | ミゾソバ類     | シマアメンボ      | オオバギボウシ   | マツムシ         |
| 13  | サクラタデ類    | オニヤンマ       | ヤブラン      | ナナフシ類        |
| 14  | ミミナグサ     | ハグロトンボ      | ニリンソウ     | アブラゼミ        |
| 15  | ノミノフスマ    | シオカラトンボ     | タチツボスミレ   | ミンミンゼミ       |
| 16  | ツリフネソウ    | ゲンジボタル      | ヤブコウジ     | ヒグラシ         |
| 17  | ムラサキサギゴケ  | ヘイケボタル      | イカリソウ     | ハンミョウ        |
| 18  | ミゾホオズキ    | ガムシ         | イチヤクソウ    | オオヒラタシデムシ    |
| 19  | ツリガネニンジン  | シマゲンゴロウ     | リンドウ      | カブトムシ        |
| 20  | ミゾカクシ     | サワガニ        | ヤマルリソウ    | クロカナブン       |
| 21  | ノアザミ      | マルタニシ       | アキノタムラソウ  | ヤマトタマムシ      |
| 22  | コオニタビラコ   | カワニナ        | キッコウハグマ   | スズメバチ類       |
| 23  | カントウヨメナ   | サギ類         | オケラ       | カラ類          |
| 24  | タウコギ      | シギ・チドリ類     | ヤブレガサ     | キツツキ類        |
| 25  | セリ        | カヤネズミ       | シラヤマギク    | タヌキ・アサギマの痕跡  |
| 外来種 | セリバヒエンソウ  | ウシガエル       | ナガミヒナゲシ   | アカボシゴマダラ     |
|     | オオフサモ     | カダヤシ        | セリバヒエンソウ  | アオマツムシ       |
|     | アレチヌスビトハギ | アメリカザリガニ    | アレチヌスビトハギ | クマゼミ         |
|     | オランダガラシ   | サカマキガイ      | マルバフジバカマ  | ムネアカハラビロカマキリ |
|     | オオキンケイギク  | スクミリンゴガイ    | オオキンケイギク  | ガビチョウ        |
| その他 |           |             |           | ヤマビル         |

## (河川の指標種一覧)

| No. | 指標種           | No. | 指標種      | No.         | 指標種         |
|-----|---------------|-----|----------|-------------|-------------|
| 1   | ナミウズムシ        | 24  | シマドジョウ   | 47          | カワラハハコ      |
| 2   | カワニナ          | 25  | ヤマメ・アマゴ  | 48          | カワラヨモギ      |
| 3   | サワガニ          | 26  | カマキリ     | 49          | カワラケツメイ     |
| 4   | ヒラタカゲロウの仲間    | 27  | カジカ      | 50          | セリ          |
| 5   | モンカゲロウの仲間     | 28  | ボウズハゼ    | 51          | カワセミ        |
| 6   | カワゲラの仲間       | 29  | ウキゴリ     | 52          | カワガラス       |
| 7   | コオニヤンマ        | 30  | ヨシノボリの仲間 | 53          | カワウ         |
| 8   | オニヤンマ         | 31  | シマヨシノボリ  | 54          | サギ類         |
| 9   | ムカシトンボ        | 32  | エビモ      | 55          | キセキレイ       |
| 10  | ヘビトンボの仲間      | 33  | ササバモ     | 56          | カジカガエル      |
| 11  | シマトビケラの仲間     | 34  | ホザキノフサモ  | 57          | タゴガエル       |
| 12  | ヒゲナガカワトビケラの仲間 | 35  | ススキ      | 外<br>来<br>種 | オオカナダモ      |
| 13  | ナガレトビケラの仲間    | 36  | オギ       |             | コカナダモ       |
| 14  | カクツツトビケラの仲間   | 37  | ヨシ       |             | ハリエンジュ      |
| 15  | アミカの仲間        | 38  | ツルヨシ     |             | シナダレスズメガヤ   |
| 16  | ゲンジボタル        | 39  | クサヨシ     |             | アレチウリ       |
| 17  | イシビルの仲間       | 40  | マコモ      |             | オオフサモ       |
| 18  | ミズムシ          | 41  | ヤナギ類     |             | アメリカザリガニ    |
| 19  | テナガエビ・スジエビの仲間 | 42  | オオイヌタデ   |             | ウシガエル       |
| 20  | ヌマエビの仲間       | 43  | ミゾソバ     |             | オオカワヂシャ     |
| 21  | アブラハヤ         | 44  | フサザクラ    |             | ミシシッピアカミミガメ |
| 22  | ウグイ           | 45  | ヒメレンゲ    |             |             |
| 23  | カマツカ          | 46  | タコノアシ    |             |             |

## (1) 調査の結果概要

令和元年から令和5年までの調査結果の概要は次のとおりです。

|      |     |    | 調査地点別での傾向                                      | 環境類型全体の傾向                                  | 外来種の傾向                           |
|------|-----|----|------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------|
| 公園神社 | 雑木林 | 植物 | ・神社4【健速神社】において4種ほどが近年確認されなくなっている。              | ・ウラシマソウ、ホウチャクソウ等が確認されなくなっている。              | ・ナガミヒナゲシ、アレチヌスビトハギが確認されている。      |
|      |     | 動物 | ・神社1【出雲大社相模分祠】において9種ほどが近年確認されなくなっている。          | ・カラ類、コゲラ類等が確認されなくなっている。                    | ・アカボシゴマダラ、アオマツムシ、ガビチョウ等が確認されている。 |
|      | 水田  | 植物 | ・公園5【いまいずみほたる公園】において3種ほどが近年確認されなくなっている。        | ・ヒガンバナ、ケキツネノボタン等が確認されなくなっている。              | ・アレチヌスビトハギ、マルバフジバカマ等が確認されている。    |
|      |     | 動物 | ・公園5【いまいずみほたる公園】において5種ほどが近年確認されなくなっている。        | ・ヤマアカガエル、ミズカマキリ等が確認されなくなっている。              | ・ウシガエル、アメリカザリガニが確認されている。         |
|      | 雑木林 | 植物 | ・地区3-9 名古木3【名古木里山を守る会】において11種ほどが近年確認されなくなっている。 | ・リンドウ、シュラン、シラヤマギク等が確認されなくなっている。            | ・アレチヌスビトハギ、オランダガラシ等が確認されている。     |
|      |     | 動物 | ・地区5-18 南が丘【立野緑地】で11種ほどが近年確認されなくなっている。         | ・ハヤシノウマオイ、クツワムシ等が確認されなくなっている。              | ・雑木林の外来種におけるすべての指標種が確認されている。     |
| 水田   |     | 植物 | ・地区4-12 堀西【才戸橋～】において10種ほどが近年確認されなくなっている。       | ・ヒガンバナ、チョウジタデ、ノミノフスマ、カントウヨメナ等が確認されなくなっている。 | ・オランダガラシ、セリバヒエンソウ等が確認されている。      |
|      |     | 動物 | ・地区4-13 千村【若竹の泉付近の水田】において8種ほどが近年確認されなくなっている。   | ・シュレーゲルアオガエル、ツチガエル、ゲンジボタル等が確認されなくなっている。    | ・アメリカザリガニ、サカマキガイ等が確認されている。       |
| 河川   |     | 植物 | ・葛葉川下流において8種ほどが近年確認されなくなっている。                  | ・ツルヨシ、ススキ、オギ等が確認されなくなっている。                 | ・ハリエンジュ、アレチウリ、オオカワヂシャ等が確認されている。  |
|      |     | 動物 | ・葛葉川下流において11種ほどが近年確認されなくなっている。                 | ・オニヤンマ、キセキレイ等が確認されなくなっている。                 | ・アメリカザリガニ、等が確認されている。             |

## (ウ) 生物調査員ヒアリングの結果概要

生物調査員を対象に、市内の自然環境及び主な動植物の分布状況に関するこれまでの状況や今後の課題等についてお伺いし、本計画の検討材料とすることを目的に調査員ヒアリングを実施しました。

日程：令和6年(2024年)8月20日

会場：秦野市くずはの家

参加者数：14名(1班：水田、2班：雑木林、3班：神社・公園に分かれて実施)

### 【意見の概要】

#### ■1班：水田班

| ヒアリング項目                  | 主な意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 自然環境の変化<br>や生きものの分布状況 | <u>柳川生き物の里(柳川)</u><br>・昔は全体的に湿地だったが、10年くらい前から乾田化し始めている。<br>・令和元年の台風19号で水路が土で埋まっていたが、令和5年に水路を復元し、ヤマアカガエルなどが戻ってきた。<br><u>オ戸橋(蓑毛)</u><br>・ヒガンバナはいなくなっているが減少しているように思う。<br>・谷筋の流れが速いため、水性生物は生息しにくい場所である。<br><u>若竹の泉付近の水田(千村)</u><br>・ホトケドジョウ、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ホタルなどが確認されている。<br>・アメリカザリガニが侵入している。<br><u>渋沢生き物の里(渋沢)</u><br>・ここ数年でヤマビルが増えている。<br><u>舞台(鶴巻)</u><br>・シギ、チドリなどの渡り鳥がくるが、最近は少ない。<br>・ノミノフスマ、ヒガンバナ、チョウジタデが確認されている。<br>・ジャンボタニシ対策で農薬や水抜きを行っており、それがほかの生物にも影響が出ている気がする。<br><u>おおね公園(鶴巻)</u><br>・ブルーギルが繁殖している。<br>・田んぼにはニホンアマガエルのオタマジャクシやドジョウがいる。水路にはタイワンシジミがいる。<br><u>道栄塚(落合)</u><br>・谷戸のようになっており、放棄地が増えている。<br>・チョウジタデやオモダカなどの水田雑草が残っている。<br>・ザリガニやノミノフスマもいる。 |
| 2. 生物多様性を保全するために必        | ・一般の人は、いろんなところに生き物がいることに気づいていない。見栄えのいい植物等ばかり注目され、市にあるべき自然                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 要と考えられること | <p>がどのようなものなのか、理解いただくことが大事ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマビルやジャンボタニシの駆除のため、農薬等を使用してしまうことが多い。ほかの生き物への影響について認識いただくことが大事だろう。</li> <li>・田んぼは区画ごとに所有者が異なり、農薬を使ったり手で除草するなど外来種対策がまちまちである。統一して在来種にやさしい手法になるとうれしい。</li> <li>・谷戸の田んぼについては、世代の移り代わりにより手入れがなされなくなっている。</li> <li>・平塚市は乾田化が進んでいる。秦野市では冬季水田を取り組んでいるところもあるが、その効果を明確化して周知することが、取組を推進するのに大事ではないか。</li> </ul> |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## ■2班：雑木林班

| ヒアリング項目              | 主な意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 自然環境の変化や生きものの分布状況 | <p><u>蓑毛自然観察の森(蓑毛)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマビルが多い。最近チップ舗装され、被害は軽減している。</li> <li>・植物の種数は多く、マルバフジバカマが確認できる。</li> <li>・鳥類はオオタカ、哺乳類はイノシシ、シカ、クマがいる。</li> <li>・30年前に比べると環境は悪化している。</li> </ul> <p><u>東電パワーグリッド周辺(東田原)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒナノキンチャクが確認されている。</li> <li>・最近除草剤による草刈りが行われており、貴重種がいなくなってしまうことを懸念している。</li> </ul> <p><u>NPO ドン会活動拠点(名古屋)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔はガムシ、シマゲンゴロウなどの水生昆虫が多く確認できたが、水田に農薬等をまくことで数が激減した。ドン会が活動し始めてから、環境は少しずつ改善されてきている。</li> <li>・ドン会が実施している生物調査が書籍化されており、その結果を活用した方がよいと思う。</li> </ul> <p><u>名古屋里山を守る会周辺(名古屋)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅団地、ニトリの先の一帯は放置され、管理されておらず環境が悪化している。</li> <li>・草地ではチョウ、昆虫類は確認できている。</li> <li>・みかん畑周辺の環境は非常に良い。</li> </ul> <p><u>曾屋ハイキングコース(曾屋)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの方による手入れが行き届いているが、手入れがいきすぎて植物が根こそぎ刈られている。</li> </ul> <p><u>羽根林道(羽根)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広葉樹林地では、ナラ枯れがみられる。ピークは過ぎたが倒木が怖い。</li> </ul> <p><u>柳川生き物の里(柳川)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガムシが生息している。</li> </ul> |

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                            | <p><u>震生湖(今泉)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマビルがおらず、環境良好。雑木林が管理されている。</li> <li>・コイが繁殖し困っている。釣り人に生物多様性への理解を啓発する必要がある。</li> <li>・コシアキトンボ、ウチワヤンマが生息している。</li> </ul> <p><u>渋沢生き物の里(渋沢)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キンラン、リンドウが確認でき、昔ながらの里山らしい手入れがされている。</li> </ul> |
| 2. 生物多様性を保全するために必要と考えられること | <ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈りボランティアの方や事業者による草刈りは、草を根こそぎ刈ってしまったり、除草剤を使用したりすることによって、生物が定着しづらい環境になっている。</li> <li>・本来の固有種ではなく重機についてきた種子等によって別の種が生育し、環境が変わってしまうケースもある。</li> <li>・以上を踏まえ、出来る範囲で生物多様性に配慮していただけるよう、生物多様性の意義について今後も普及啓発し続ける必要がある。</li> </ul>                                    |
| 3. 活動する上で困っていること           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査員の高齢化やヤマビル被害によって調査員になりたがる人が減っている。調査員の担い手確保が課題。</li> <li>・生物調査は年2回の実施となっているが、2回だけでは生き物の状況を網羅するのが難しい。都度、別日に確認した記録を反映するなど、調査方法について精査した方がよい。</li> <li>・曾屋ハイキングコースなど、ボランティアによる草刈り後に調査すると生物を見つけることが困難になる。草刈り日の情報を得るのが難しい。</li> </ul>                             |

### ■3班：神社・公園班

| ヒアリング項目              | 主な意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 自然環境の変化や生きものの分布状況 | <p><u>白笹稲荷神社(今泉)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に草刈り等の管理がされている。</li> <li>・一貫田用水では、ホタルを守るためにカワニナを撒いて保護している。</li> <li>・一貫田用水がどぶさらいによってきれいになりすぎた結果、生き物が隠れられる場所がなくなり、生き物がいなくなった。</li> </ul> <p><u>いまいずみホテル公園(室川周辺含む)(今泉台1丁目)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川工事の影響で、河川の環境が変わってしまい、見かける生き物はあきらかに減った。</li> <li>・ホトケドジョウがたくさんいたが減ってしまった。産卵場所や隠れ場がなくなった。</li> <li>・モクズガニにも影響があるのではないか。</li> <li>・カルガモなども草がないので困っているのではないかと。マガモの個体は室川周辺の公園で増えている。</li> <li>・カワムツが増えた。誰かが放したのだと思われる。上から見ただけでも姿が見える。</li> </ul> |

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                            | <p><u>小藤川水田(今泉)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホトケドジョウがみられる。</li> <li>・モクズガニは今まではいなかったが、みられるようになった。</li> </ul> <p><u>今泉あらい湧水公園(今泉)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の方が草刈りを行い、丸刈りにしてしまっている。</li> </ul> <p><u>今泉名水桜公園(今泉)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アオコが発生していて、景観上よくない。もっと排水対策をしてほしい。水中ポンプを使うなどしてはどうか。水門をあけたりしているが、それでは効果がないと思う。</li> <li>・泥かきをいくらやってもまた泥がたまってしまう。</li> <li>・カワセミがいる。住宅のあるところから飛んできているようだ。室川にもカワセミがいる。</li> <li>・ブラックバスを放す人がいるようで困っている。ニシキゴイも放している。ザリガニを放す人もいる。飼っているものを放すのではないか。</li> <li>・キマダラカメムシが増えている。桜の木に集まるので、木が弱くなるのではと心配している。</li> </ul> |
| 2. 生物多様性を保全するために必要と考えられること | <ul style="list-style-type: none"> <li>・えのきの会ではエコスクールを行っている。水辺分科会など3つの会がある。幼稚園、低学年を対象。小さな子供達には、生き物に親しむのが中心。日頃から関心をもってもらえると思う。</li> <li>・街の木を切ると緑が減ってしまう。植えるにしても、生き物に繋がりのある木がよい。要望を上げることができればよい。クヌギ、ハンノキ、カシなど。千年の森事業のようにカシばかり植えるのはどうかと思う。秦野市に過去にあった木の種類等など、そのような情報が整理されていて、そこから選定するなどできるとよい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 3. 活動する上で困っていること           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺分科会は人数が少なくなり、安全性を確保できないことから、活動を休止した。</li> <li>・野鳥の分科会で双眼鏡を使うのだが、いい双眼鏡がほしい。(参加者に貸したりする)</li> <li>・指標種をみつけるために、自分でネットから写真を集めて一覧をつくったりしている。花の季節以外でも見分けられるように、葉の写真を撮ったりしている。ネットで入手した写真には著作権があるので使いにくい。写真リストがほしい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

## エ 緑地の現況

### (ア) 山の緑

山の緑や良好な景勝を保全するため、丹沢大山国定公園・県立丹沢大山自然公園や自然環境保全地域が指定されています。また、緑の持つ保水力や治山効果を維持・発揮させるため、水源地域の私有林を対象として、公益機能の高い森林づくりを進める「かながわ水源の森林づくり事業」が県を中心に展開されています。

本市では、森林を50年かけて再生・整備し、さらに50年かけて健全に育成し完成された森林にしていく「はだの一世紀の森林づくり構想」を掲げ、かつて葉タバコ栽培の盛んな頃の管理された里山への再生に向け、地元住民等が中心となって取り組んでいます。また、緑化思想の普及啓発と水源かん養を目的に森林づくりを進めています。

### (イ) 都市(まち)の緑

樹林保全地区・保存樹木の指定、生産緑地地区の指定を行い、市街地に残る貴重な緑の保全を図っています。また、かながわのナショナル・トラスト緑地第1号「葛葉緑地」は、保存契約による緑地保全のみならず、くずはの広場を拠点に緑化思想の普及啓発に活用しています。

街中の緑を創造するため、秦野市まちづくり条例に基づく緑化指導を進めています。

### (ウ) 緑地状況

令和2年度都市計画基礎調査票を参考にした緑地の状況は、次のとおりです。  
なお、緑地の区分は下表に示すとおりです。

| 区 分 |     |       | 内 容               |
|-----|-----|-------|-------------------|
| 緑 地 | 山 林 | 平坦地山林 | 傾斜度 15 度未満の山林     |
|     |     | 傾斜地山林 | 傾斜度 15 度以上の山林     |
|     | 草 地 | 荒 地   | 雑種地、裸地等(湿地、沼地等)   |
|     |     | 河 川 敷 | 河川敷内の草地など         |
|     |     | そ の 他 | 都市公園、ゴルフ場         |
|     | 農 地 | 田     | 水田                |
|     |     | 畑     | 畑・果樹園<br>みかん・くりなど |
|     |     | 耕作放棄地 | 当面耕作予定のない農地       |
|     | 水 面 |       | 河川・水面・水路          |

緑地

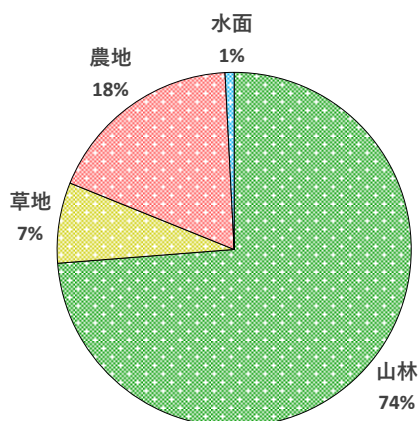
樹木や草など植物で被われている土地です。

緑地率

ある土地の地区面積に占める緑地の割合です。地域の緑の多少を表す指標として用いられます。

## (I) 市全域の緑地の状況

市全域の緑地面積は7,428.8ha で、市全域の約72%が緑地となっています。このうち山林面積が5,479.3ha で緑地の約74%、農地面積が1,341.6ha で緑地の約18%を占め、緑地の大部分が山林と農地で構成されています。



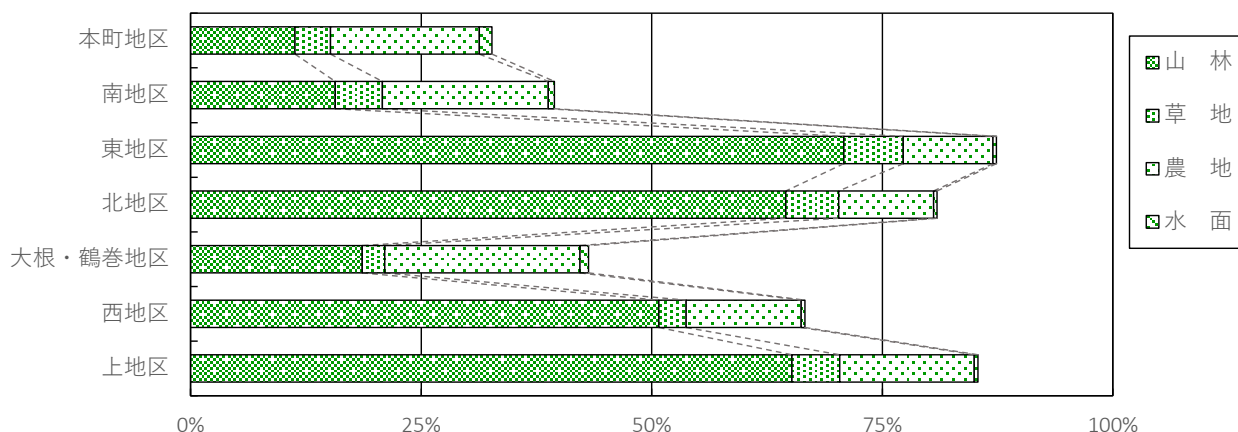
市全域の緑地の現況の内訳

※ 端数処理により合計が合わない場合があります。

※面積の値は令和2年度都市計画基礎調査結果の土地利用分類別面積の調査票によります。

## (オ) 地区別の緑地

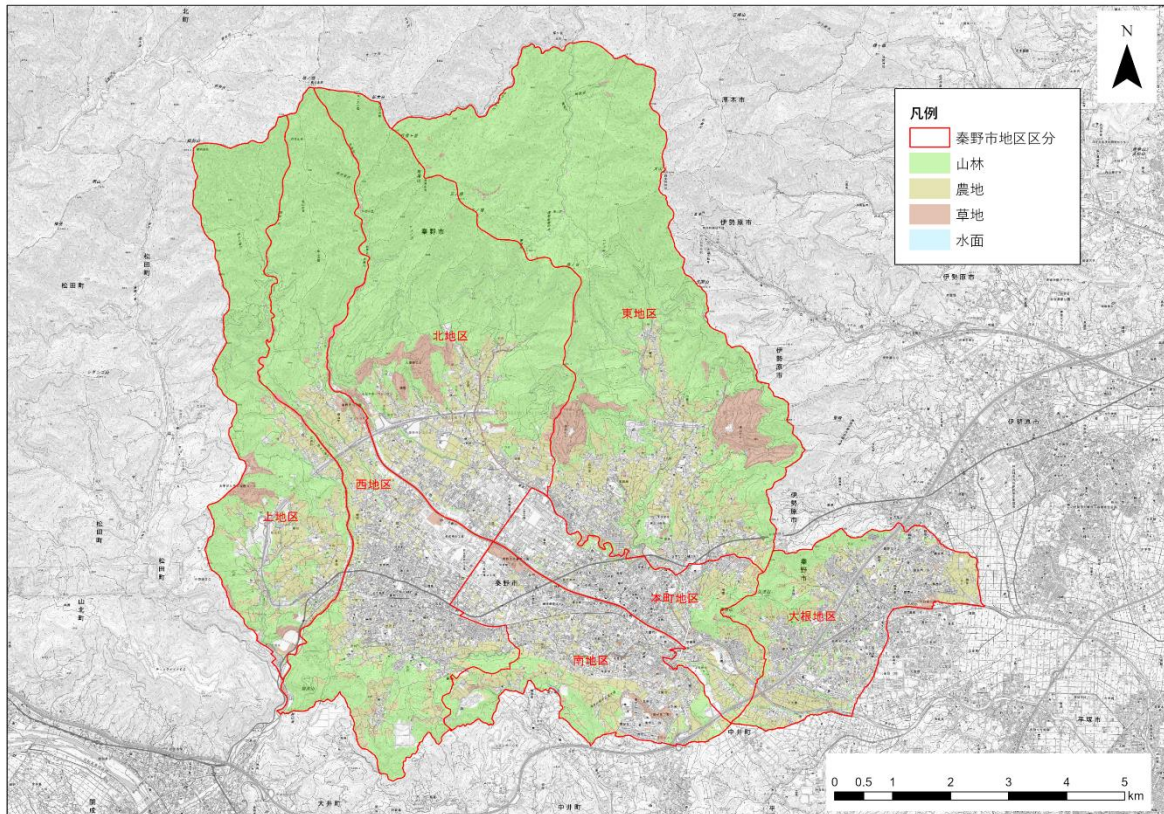
市街化の進んだ本町地区、南地区、大根・鶴巻地区では農地の占める面積が山林よりも高くなっています。丹沢大山国定公園及び県立丹沢大山自然公園の区域を含む東地区、北地区、西地区、上地区では緑地率が約51%以上と地区面積の半分以上を山林が占めています。



地区別の緑地の現況

※各地区の面積は「秦野市公共施設白書 令和4(2022)年度改訂版」に掲載の数値を使用しています。

※緑地の面積は令和2年度都市計画基礎調査結果のGIS上の面積を用いているため、市全域の面積の数値(土地利用分類別面積の調査票)とは一致しません。

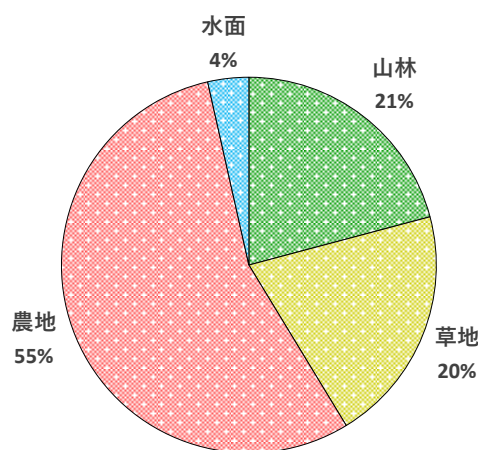


秦野市の緑地分布図(地区別)

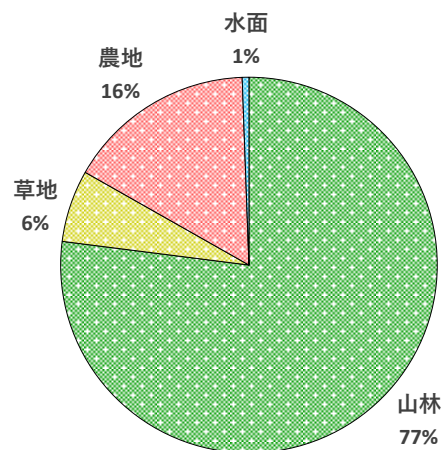
## (カ) 市街化区域・市街化調整区域の緑地

市街化区域の緑地面積は372.83ha、緑地率は約15%です。このうち、緑地の約55%が農地であり、市街化区域では農地が重要な緑地となっています。

市街化調整区域の緑地面積は7,014.7ha、緑地率は約89%です。丹沢山地、渋沢丘陵などを含んでおり、緑地の約77%が山林です。



市街化区域の緑地の現況の内訳

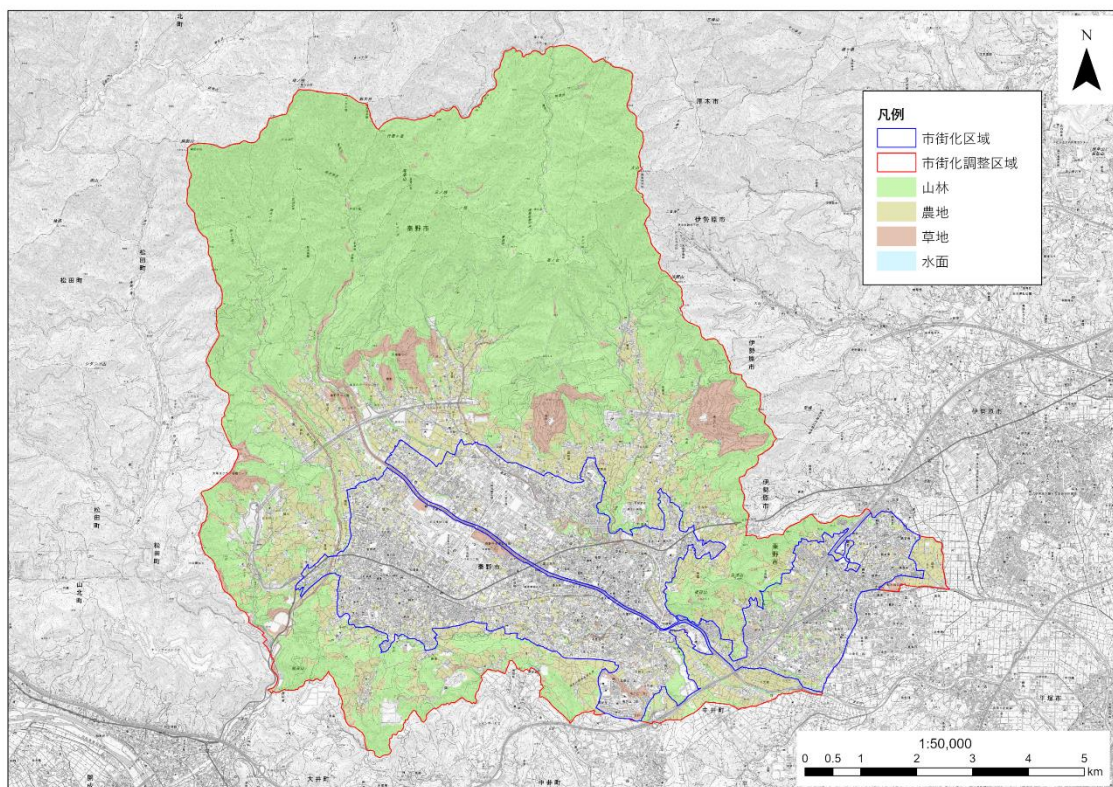


市街化調整区域の緑地の現況の内訳

※端数処理により合計が合わない場合があります。

※市街化区域・市街化調整区域の面積は「秦野都市計画図(令和6年5月現在)」に掲載の数値を使用しています。

※緑地の面積は令和2年度都市計画基礎調査結果のGIS上の面積を用いているため、市全域の面積の数値(土地利用分類別面積の調査票)とは一致しません。

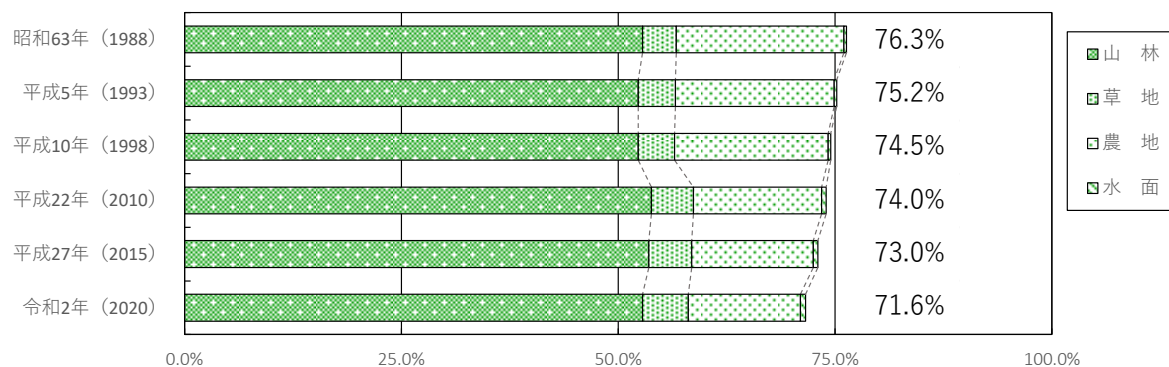


秦野市の緑地分布図(市街化区域、市街化調整区域)

## (†) 緑地の経年変化※

前回調査(平成 27 年)と比較すると、5年間で市全域約147.8ha、率にして約 1.4%の緑地が減少しています。

主な変化の内訳は、山林が約73.9ha(0.7%)、農地が約113.1ha(1.1%)減少しています。



※「緑地の経年変化」

平成 10 年までは撮影空中写真、平成 22、27、令和2年は都市計画基礎調査を参照

## オ 施設緑地

施設緑地とは、都市公園法に基づいた「都市公園」と「都市公園以外」に区分されます。都市公園には、基幹公園・特殊公園・大規模公園・都市緑地等があります。また、都市公園以外には、公共施設緑地・民間施設緑地があります。

### (ア) 都市公園

本市の整備状況は、街区公園183箇所、近隣公園4箇所、地区公園2箇所、運動公園1箇所、風致公園1箇所、歴史公園3箇所、広域公園1箇所、都市緑地12箇所の合計207箇所・137.55haです。

| 名称     |      | 令和2年(2020)   |                  |                   |              |                    |                   |
|--------|------|--------------|------------------|-------------------|--------------|--------------------|-------------------|
|        |      | 市街化区域        |                  |                   | 都市計画区域       |                    |                   |
|        |      | 箇所           | 面積<br>(ha)       | m <sup>2</sup> /人 | 箇所           | 面積<br>(ha)         | m <sup>2</sup> /人 |
| 住区基幹公園 | 街区公園 | 176<br>(172) | 15.87<br>(14.98) | 1.08<br>(1.00)    | 183<br>(179) | 16.08<br>(15.19)   | 0.99<br>(0.92)    |
|        | 近隣公園 | 3<br>(2)     | 5.33<br>(3.33)   | 0.36<br>(0.22)    | 4<br>(2)     | 7.33<br>(3.33)     | 0.45<br>(0.20)    |
|        | 地区公園 | 0<br>(0)     | 0<br>(0)         | 0<br>(0)          | 2<br>(1)     | 11.92<br>(6.82)    | 0.74<br>(0.41)    |
| 都市基幹公園 | 総合公園 | 0<br>(0)     | 0<br>(0)         | 0<br>(0)          | 0<br>(0)     | 0<br>(0)           | 0<br>(0)          |
|        | 運動公園 | 1<br>(1)     | 17.75<br>(17.75) | 1.18<br>(1.18)    | 1<br>(1)     | 17.75<br>(17.75)   | 1.10<br>(1.08)    |
| 特殊公園   | 風致公園 | 1<br>(1)     | 0.66<br>(0.66)   | 0.04<br>(0.04)    | 1<br>(1)     | 0.66<br>(0.66)     | 0.04<br>(0.04)    |
|        | 歴史公園 | 2<br>(1)     | 1.62<br>(1.02)   | 0.11<br>(0.07)    | 3<br>(1)     | 7.92<br>(1.02)     | 0.49<br>(0.06)    |
| 大規模公園  | 広域公園 | 0<br>(0)     | 0<br>(0)         | 0<br>(0)          | 1<br>(1)     | 50.83<br>(36.10)   | 3.14<br>(2.19)    |
| 都市緑地   | 都市緑地 | 11<br>(11)   | 14.40<br>(14.40) | 0.98<br>(0.96)    | 12<br>(12)   | 25.05<br>(25.05)   | 1.55<br>(1.52)    |
| 合計     |      | 194<br>(188) | 55.64<br>(52.16) | 3.79<br>(3.48)    | 207<br>(198) | 137.55<br>(105.94) | 8.49<br>(6.42)    |

※ 端数処理により合計が合わない場合があります。

※ ( )内は、平成 30 年度の数値

#### (イ) 都市公園以外

本市の整備状況は、公共施設緑地が、その他公園4箇所、その他緑地10箇所、広場6箇所、市民農園50箇所、教育施設35箇所、公共施設69箇所、その他12箇所の合計186箇所・293.40haです。

民間施設緑地が、環境創出行為によるプレイロット129箇所、環境創出行為による緑地1,354箇所、ゴルフ場5箇所、その他47箇所の合計1,535箇所・372.00haです。

| 名称     |                    | 令和2年(2020)     |                  |                   |                |                    |                   |
|--------|--------------------|----------------|------------------|-------------------|----------------|--------------------|-------------------|
|        |                    | 市街化区域          |                  |                   | 都市計画区域         |                    |                   |
|        |                    | 箇所             | 面積(ha)           | m <sup>2</sup> /人 | 箇所             | 面積(ha)             | m <sup>2</sup> /人 |
| 公共施設緑地 | その他公園              | 3<br>(3)       | 0.17<br>(0.17)   | 0.01<br>(0.01)    | 4<br>(4)       | 0.17<br>(1.20)     | 0.01<br>(0.07)    |
|        | その他緑地              | 8<br>(8)       | 1.86<br>(1.86)   | 0.12<br>(0.12)    | 10<br>(10)     | 2.20<br>(2.20)     | 0.13<br>(0.13)    |
|        | 広場                 | 4<br>(4)       | 4.00<br>(4.00)   | 0.27<br>(0.27)    | 6<br>(6)       | 5.46<br>(5.46)     | 0.33<br>(0.32)    |
|        | 市民農園               | 5<br>(3)       | 0.49<br>(0.35)   | 0.03<br>(0.03)    | 50<br>(39)     | 9.98<br>(9.26)     | 0.61<br>(0.55)    |
|        | 教育施設               | 26<br>(26)     | 37.68<br>(38.24) | 2.56<br>(2.55)    | 35<br>(36)     | 52.02<br>(52.58)   | 3.21<br>(3.12)    |
|        | 公共施設               | 51<br>(51)     | 29.11<br>(29.18) | 1.98<br>(1.95)    | 69<br>(69)     | 45.90<br>(56.16)   | 2.78<br>(3.33)    |
|        | その他                | 6<br>(7)       | 26.08<br>(26.08) | 1.77<br>(1.74)    | 12<br>(12)     | 177.74<br>(177.60) | 10.77<br>(10.54)  |
| 合計     |                    | 103<br>(102)   | 99.41<br>(99.88) | 6.76<br>(6.66)    | 186<br>(186)   | 293.40<br>(294.04) | 18.11<br>(17.82)  |
| 民間施設緑地 | 環境創出行為<br>(プレイロット) | 110<br>(110)   | 3.83<br>(3.83)   | 0.26<br>(0.26)    | 129<br>(129)   | 4.86<br>(4.86)     | 0.30<br>(0.29)    |
|        | 環境創出行為<br>(緑地)     | 1,110<br>(731) | 24.93<br>(18.75) | 1.70<br>(1.25)    | 1,354<br>(756) | 30.04<br>(23.31)   | 1.85<br>(1.41)    |
|        | ゴルフ場               | 0<br>(0)       | 0<br>(0)         | 0<br>(0)          | 5<br>(5)       | 272.69<br>(272.69) | 16.83<br>(16.53)  |
|        | その他                | 45<br>(45)     | 47.11<br>(47.12) | 3.20<br>(3.14)    | 47<br>(47)     | 64.44<br>(64.41)   | 3.98<br>(3.88)    |
| 合計     |                    | 1,265<br>(886) | 75.88<br>(69.70) | 5.16<br>(4.65)    | 1,535<br>(937) | 372.00<br>(365.27) | 22.96<br>(22.14)  |

※ 端数処理により合計が合わない場合があります。

※ ( )内は、平成30年度の数値

## カ 地域制緑地

地域制緑地とは、法や条例等による規制により、良好な環境を保全する地域です。

### (ア) 法によるもの

本市の状況は、生産緑地地区、自然公園(国定公園)、農業振興地域農用地区域、保安林区域の合計8,452.10haです。

| 名称     |                                  | 令和2年(2020)         |                   |                        |                    |
|--------|----------------------------------|--------------------|-------------------|------------------------|--------------------|
|        |                                  | 市街化区域              |                   | 都市計画区域                 |                    |
|        |                                  | 面積(ha)             | m <sup>2</sup> /人 | 面積(ha)                 | m <sup>2</sup> /人  |
| 法によるもの | 生産緑地地区<br>(生産緑地法)                | 100.00<br>(100.80) | 6.80<br>(6.72)    | 100.00<br>(100.80)     | 6.17<br>(6.11)     |
|        | 丹沢大山国定公園<br>(自然公園法)              | 0<br>(0)           | 0<br>(0)          | 3,938.00<br>(3,938.00) | 243.08<br>(238.67) |
|        | 農業振興地域農用地区域<br>(農業振興地域の整備に関する法律) | 0<br>(0)           | 0<br>(0)          | 695.10<br>(715.58)     | 42.90<br>(43.37)   |
|        | 保安林区域<br>(森林法)                   | —<br>(—)           | —<br>(—)          | 3,719.00<br>(3,719.00) | 229.56<br>(225.40) |
| 合計     |                                  | 100.00<br>(100.80) | 6.80<br>(6.72)    | 8,452.10<br>(8,473.38) | 521.73<br>(513.54) |

※ 端数処理により合計が合わない場合があります。

※ ( )内は、平成 30 年度の数値

### (イ) 条例等によるもの

本市の状況は、自然公園（県立自然公園）、自然環境保全地域、樹林保全地区、保存樹木、生垣の設置、生き物の里、かながわのナショナル・トラスト緑地の合計**471.68**haです。

| 名称       |                               | 令和2年(2020)          |                   |                    |                   |
|----------|-------------------------------|---------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
|          |                               | 市街化区域               |                   | 都市計画区域             |                   |
|          |                               | 面積(ha)              | m <sup>2</sup> /人 | 面積(ha)             | m <sup>2</sup> /人 |
| 条例等によるもの | 県立丹沢大山自然公園<br>(県立自然公園条例)      | 7.90<br>(7.90)      | 0.53<br>(0.53)    | 290.00<br>(290.00) | 17.90<br>(17.58)  |
|          | 三廻部浅間山自然環境保全地域<br>(県自然環境保全条例) | 0<br>(0)            | 0<br>(0)          | 47.10<br>(47.10)   | 2.90<br>(2.86)    |
|          | 菩提向山自然環境保全地域<br>(県自然環境保全条例)   | 0<br>(0)            | 0<br>(0)          | 28.70<br>(28.70)   | 1.77<br>(1.74)    |
|          | 田原・蓑毛自然環境保全地域<br>(県自然環境保全条例)  | 0<br>(0)            | 0<br>(0)          | 91.30<br>(91.30)   | 5.63<br>(5.53)    |
|          | 樹林保全地区<br>(秦野市みどり条例)          | 10.35<br>(9.66)     | 0.70<br>(0.64)    | 10.35<br>(9.66)    | 0.63<br>(0.59)    |
|          | 保存樹木<br>(秦野市みどり条例)            | 29<br>(27 本)        | —<br>(—)          | 29<br>(33 本)       | —<br>(—)          |
|          | 生垣の設置<br>(秦野市生垣設置奨励補助金交付要綱)   | 1.52<br>(15,089.4m) | 0.10<br>(0.10)    | 1.52<br>(1.52m)    | 0.09<br>(0.09)    |
|          | 生き物の里<br>(秦野市みどり条例)           | 0<br>(0)            | 0<br>(0)          | 2.70<br>(2.70)     | 0.16<br>(0.16)    |
|          | かながわの<br>ナショナル・トラスト緑地         | 0<br>(5.64)         | 0<br>(0.38)       | 0<br>(5.64)        | 0<br>(0.34)       |
| 合計       |                               | 19.78<br>(24.72)    | 1.35<br>(1.65)    | 471.68<br>(476.62) | 29.12<br>(28.89)  |

※ 端数処理により合計が合わない場合があります。

※ ( )内は、平成 30 年度の数値

※ 平成 29 年度末に秦野市生垣設置奨励補助金廃止

## キ 里山

標高300m未満の森林で、人の手を入れて積極的に保全再生する地域です。

### (ア) 里山

本市の状況は、森林面積5,426ha※のうち、約1,066haです。

| 名称  | 面積(ha) |
|-----|--------|
| 針葉樹 | 289    |
| 広葉樹 | 743    |
| 竹   | 34     |
| 合計  | 1,066  |

※森林面積は、「秦野市バイオマス産業都市構想」(令和6年(2024)8月)に記載の令和5年(2023年)3月末時点の値を採用しています。

### (イ) 里山の保全再生整備

里山の保全再生整備は、山林所有者と市が協約を結び、事業者に委託して整備する「ふるさと里山整備事業」、事業者に委託し、森林施業の集約化を図り、持続可能な人工林の整備を行う「地域水源林長期施業受委託事業」及び、市と山林所有者とボランティア団体との3者で利用協定を結びボランティア団体が整備する「里山ふれあいの森づくり事業」があります。

| 名称             | 令和5年(2023) |
|----------------|------------|
|                | 整備面積(ha)   |
| ふるさと里山整備事業     | 7.70       |
| 地域水源林長期施業受委託事業 | 30.50      |
| 里山ふれあいの森づくり事業  | 31.95      |
| 合計             | 70.15      |

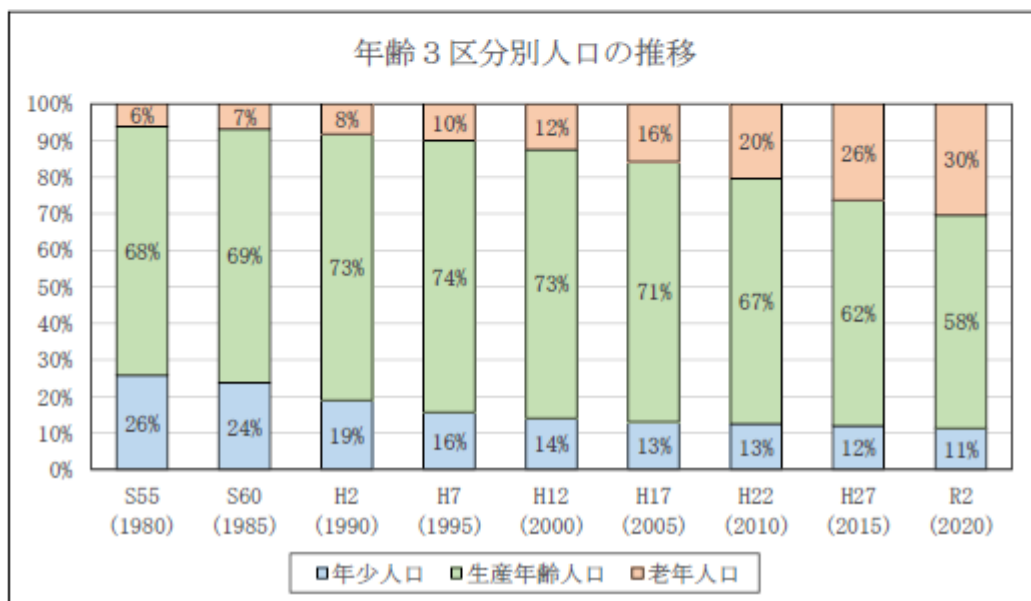
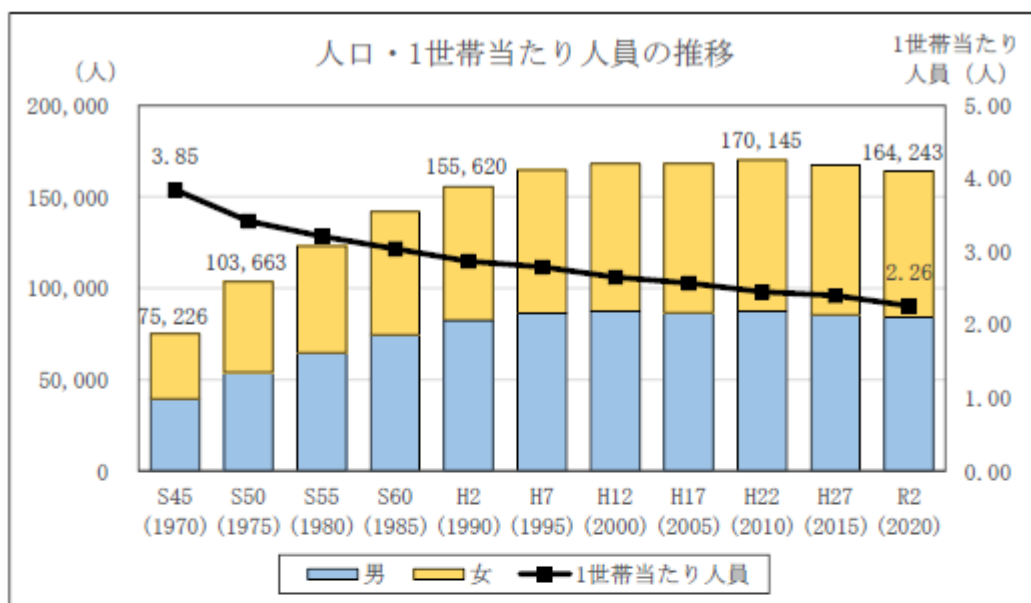
## (2)みどりに関する社会的状況

### ア 人口・世帯

本市の人口は、令和 2 年(2020 年)10 月時点で 164,243 人となっており、平成 22 年(2010 年)の 170,145 人を境に人口が減少しています。

1 世帯当たりの人員は、昭和 45 年(1970 年)に 3.85 人だったものが、令和 2 年(2020 年)には 2.26 人と年々減少してきており、核家族化の進行がうかがえます。

総人口に対する老年人口(65 歳以上)の割合は、令和 2 年(2020 年)で約 30%となっており、約3人に1人が高齢者となっています。

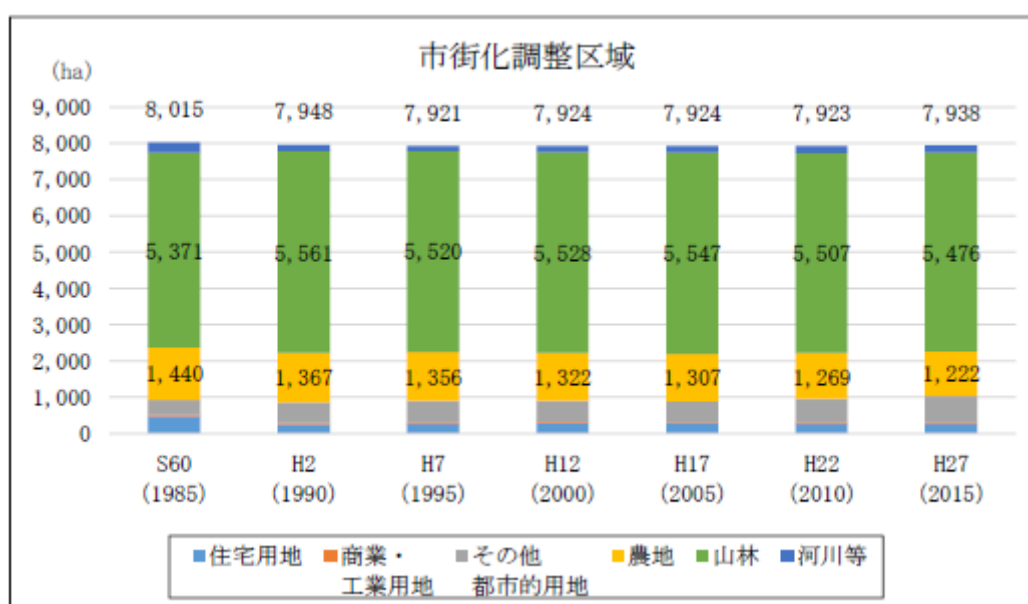
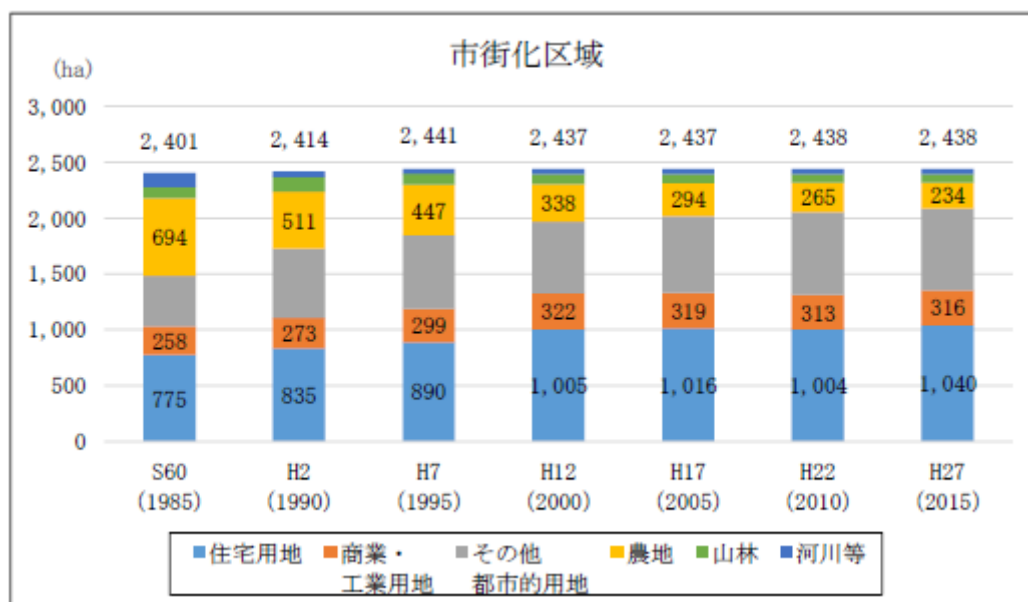


## イ 土地利用

本市は、昭和30年(1955 年)1月1日市制を施行し、同年4月15日大根村の一部を、昭和38年(1963 年)1月1日西秦野町をそれぞれ編入合併し、令和 7 年(2025 年)1月1日に市制施行 70 周年を迎え今日に至っています。

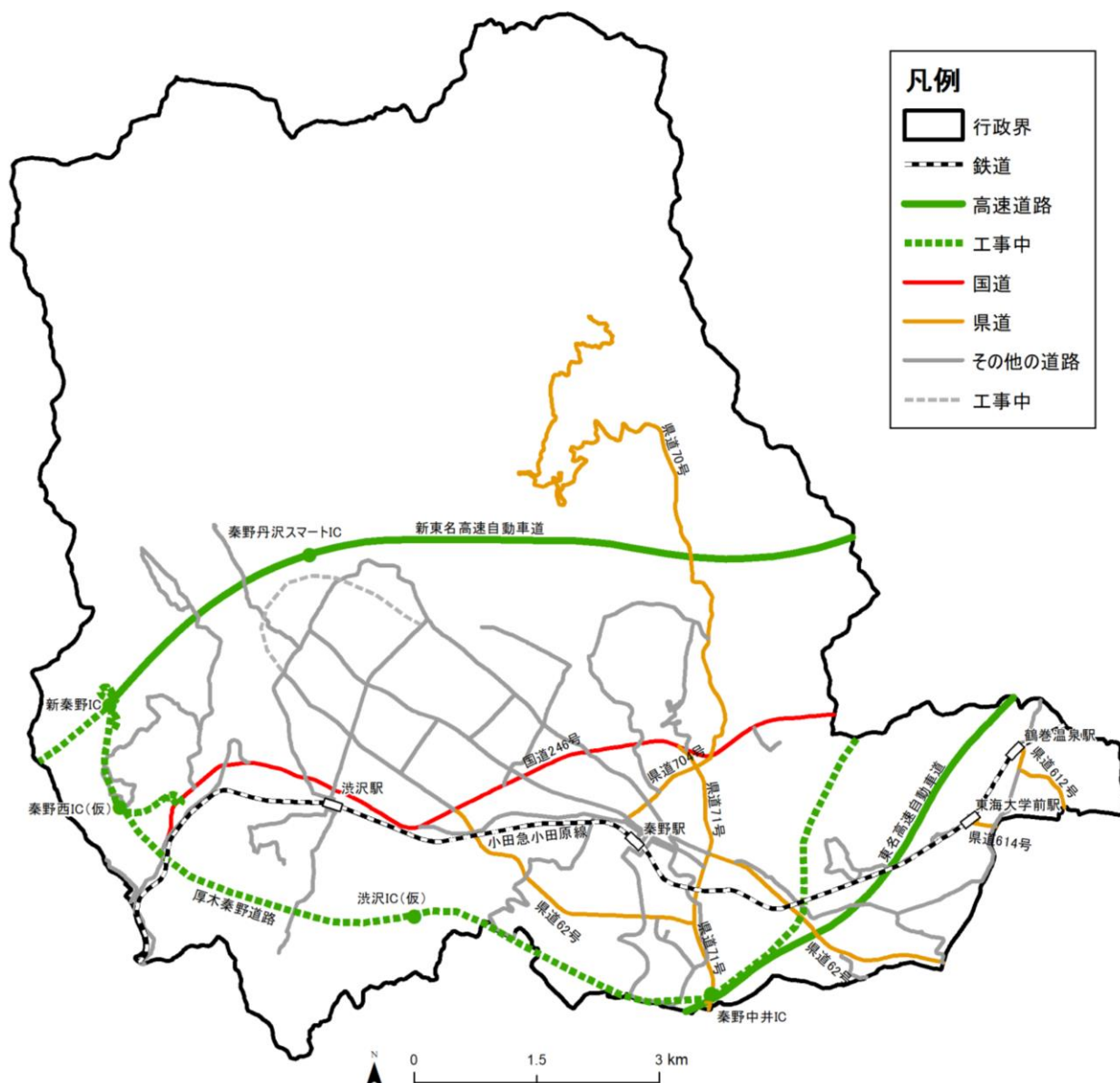
市街化状況は、盆地の中央で江戸時代より市が開かれて十日市場と呼ばれていた本町四ツ角を中心に集積し、小田急線の4駅を各々核として周辺地域に市街地が形成しています。一方、市街地の周辺には農地が広がり、市を取り囲む丹沢山地・渋沢丘陵に続いています。丹沢山地の自然環境は自然公園法に基づく自然公園地域などにより保全されています。

このように、本市は都市の利便性と田園の自然性の両面が存在し、住宅地が自然に囲まれた都市環境にあります。



## ウ 交通

令和4年(2022 年)に新東名高速道路が開通し、本市への広域交通の利便性が向上しました。また、新東名高速自動車道の新秦野 IC～新御殿場 IC 間、厚木秦野道路等が工事中であり、今後更に広域的な幹線道路網が充実し、地域活性化や環境負荷の軽減、防災対策等の様々な面において利便性が向上するものと予測されます。



## エ 上位関連計画における社会情勢

令和3(2021)年3月に秦野市みどりの基本計画を策定して以降、みどりを取り巻く国際情勢や国・県の動向、本市の上位・関連計画が下記のとおり変化してきました。

これからのみどりに関する取組のキーワードとして、地球温暖化対策(カーボンニュートラル)、気候変動・災害激甚化への対応(地域レジリエンス)、生物多様性への配慮(ネイチャーポジティブの実現)、グリーンインフラの活用等があげられます。

### (ア) 国際情勢または国の動向

| 関係法令・関連計画等                    | 策定年月            | 概要                                                                                                                                                   |
|-------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地球温暖化対策計画                     | 令和3年 10 月       | ○2030 年度において、温室効果ガス 46%削減(2013 年度比)を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるための対策・施策を記載                                                                             |
| 生物多様性国家戦略 2023-2030           | 令和5年3月          | ○新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に対応した戦略<br>○2030 年に陸と海の 30%以上を保全する 30by30 目標の達成、ネイチャーポジティブの実現を目指した国家戦略                                                    |
| 気候変動適応計画                      | 令和5年5月          | ○防災、安全保障、農業、健康等の幅広い分野で適応策の拡充<br>○気候変動適応の一分野である熱中症対策を強化するための対策・施策を記載                                                                                  |
| グリーンインフラ推進戦略 2023             | 令和5年9月          | ○「自然と共生する社会」の実現に向け、あらゆる場面・分野において自然環境の持つ多様な機能を活用し、様々な社会課題の解決するための戦略                                                                                   |
| 持続可能な開発目標 (SDGs)実施指針          | 令和5年 12 月       | ○2030 年の国内外での SDGs 達成を目指す<br>○我が国が直面する人口減少や少子高齢化に対し、持続可能な発展と繁栄の観点から SDGs の取組を強化・加速させる実施指針                                                            |
| 第六次環境基本計画                     | 令和6年5月          | ○環境を軸とした環境・経済・社会の統合的向上の次なるステップを示す<br>○「Well-being／高い生活の質」の実現を目指す<br>○環境負荷の総量削減と良好な環境の創出等                                                             |
| 都市緑地法の一部を改正する法律(令和6年法律第 40 号) | 令和6年 11 月<br>施行 | ○都市の緑地を質・量の両面で確保し、良好な都市環境を実現するため改正<br>○国主導による戦略的な都市緑地の確保、貴重な都市緑地の積極的な保全・更新、緑と調和した都市環境整備への民間投資の呼び込み等を強化する<br>○優良緑地確保計画認定制度(「TSUNAGツナグ」)等の新たな制度運用を開始予定 |

| 関係法令・関連計画等                                      | 策定年月           | 概要                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針(通称「緑の基本方針」)        | 令和7年4月<br>施行予定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○都市緑地法の改正を受け、国土交通大臣が都市における緑地の保全等に関する基本方針を策定</li> <li>○緑地の保全及び緑化の推進の目標として「環境への負荷が小さいカーボンニュートラル都市」、「人と自然が共生するネイチャーポジティブを実現した都市」、「Well-being が実感できる水と緑豊かな都市」を設定</li> </ul>                  |
| 地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律(通称「地域生物多様性増進法」) | 令和7年4月<br>施行予定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域における生物の多様性の増進のための活動を促進することを目的とする法律</li> <li>○企業等が地域において生物多様性増進活動を行おうとする際の「増進活動実施計画」の認定、市町村が地域の多様な主体と連携する「連携増進活動実施計画」の認定、「生物多様性維持協定」締結制度の創設等を行い、地域における長期的・安定的な活動を可能とする方針を示す</li> </ul> |

### (イ) 県の動向

| 関連計画等                 | 策定年月   | 概要                                                                                                                                                               |
|-----------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| かながわ都市マスタープラン         | 令和3年3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○都市環境と自然的環境がともに調和し、自然や地形などを考慮して水やみどりの適切な保全と活用、地域の実情に応じた土地利用と地域資源や既存ストックの有効活用を目指す</li> </ul>                               |
| 新かながわグランドデザイン         | 令和6年3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いのち輝くマグネット神奈川」の実現</li> <li>○多くの人が訪れ、にぎわう湘南のなぎさや丹沢大山など美しい自然環境、歴史・文化に恵まれた湘南地域の価値や魅力を生かして、定住人口の維持や交流人口の増加に取り組む</li> </ul>  |
| かながわ生物多様性計画 2024-2030 | 令和6年3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○生物多様性の世界目標である「昆明・モンリオール生物多様性枠組」及び「生物多様性国家戦略 2023-2030」を踏まえ、改定</li> <li>○地域の特性に応じた生物多様性の保全、生物多様性の理解と保全行動の促進を図る</li> </ul> |
| 神奈川県環境基本計画            | 令和6年3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○深刻化する気候変動の影響や生物多様性の損失といった危機に対応し、持続可能な社会を形成していくため、改訂</li> <li>○経済・社会・環境のバランスがとれた社会を目指し、統合的な課題解決を目指す</li> </ul>            |
| 神奈川県地球温暖化対策計画         | 令和6年3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○2050 年脱炭素社会(カーボンニュートラル)の実現に加え、2030 年度までの温室効果ガス排出量を 2013 年度比で 50%削減することを目指す</li> </ul>                                    |

(ウ) 市の上位・関連計画

| 関連計画等                | 策定年月      | 概要                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| はだの一世紀の森林づくり構想       | 平成 20 年5月 | ○森林を市民共有の財産としてとらえ、50 年かけて森林整備を推進して荒廃林を解消し、その後 50 年は森林を適正に維持管理することによって100年後には市内の森林を再生することを目指す                                                                                                         |
| 表丹沢魅力づくり構想           | 令和2年9月    | ○表丹沢一帯にある様々な分野の資源を磨き、つなげ、新たに触れる機会を増やすことで、市民には表丹沢の魅力を再認識していただき、愛着や誇り(シビックプライド)の醸成につなげる<br>○表丹沢の本物の魅力を効果的な方法で発信することで、市外からも多くの方に2度、3度と訪れていただき、第2のふるさととしての関係性を築くことを目指す。                                  |
| ゼロカーボンシティ表明          | 令和3年2月    | ○2050 年の脱炭素社会の実現に向けて、「ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明<br>○秦野市の普遍的財産である「水とみどり」を未来へ引き継ぐことができるよう、二酸化炭素の排出を抑制する「緩和策」と温暖化による気候変動の影響を回避する「適応策」との両輪による取組を進める                                                              |
| 秦野市総合計画 はだの 2030 プラン | 令和3年3月    | ○都市像「水とみどりに育まれ 誰もが輝く暮らしよい都市(まち)」の実現に向け、5つの基本目標を柱に施策を展開<br>○人口規模の想定として、令和12年(2030年)157,000 人を設定<br>○基本目標3 名水の里の豊かな自然と共生し安全・安心に暮らせるまちづくりでは、環境と共生する快適な暮らしの確保、地域特性を生かした都市農業の振興、持続可能な森林整備と里山林の保全を政策として掲げる |
| 秦野市都市マスタープラン         | 令和3年3月    | ○都市の持続可能性の確保、広域的交通環境への対応、自然環境の保全、安全・安心・快適性の確保、景観に配慮したまちづくりを進める<br>○本市のシンボルである水無川及びその周辺は、自然環境とのふれあいや良好な交通環境を創出する「水とみどりのふれあい軸」として位置付ける                                                                 |
| 第3次秦野市環境基本計画         | 令和3年3月    | ○「地域循環共生圏の構築」を重点戦略に位置付け、さらに、環境課題を横断的に捉える「はぐくむ・そなえる・つなげる」の視点により、持続可能な施策を進める<br>○里山山地の保全、水源かん養、生物多様性の保全再生、森林セラピーのような新たな利活用方法の模索                                                                        |

| 関連計画等              | 策定年月   | 概要                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                    |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地下水を市民共有の財産である資源とした管理を図る</li> <li>○農地の減少及び担い手不足による荒廃農地の増加への対応、農地の集積・集約化を図り、既存農地の有効活用と保全</li> <li>○市街地の緑地や生き物の里の環境維持に努め、生物調査の実施や外来種の駆除推進等、生物多様性を地域資源とする持続可能な利用を推進</li> </ul>         |
| 秦野市地下水総合保<br>全管理計画 | 令和3年3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○名水百選「秦野盆地湧水群」を育み、「市民共有の財産」として、使い・守り・育て・伝えていくことを目的とする</li> <li>○「秦野水循環モデル」のもと地下水をマネジメントし、「秦野名水名人」の仕組みを加え、市民や事業者との協働による取組みを充実して策定</li> </ul>                                          |
| 秦野市地球温暖化対<br>策実行計画 | 令和4年3月 | ○2030 年に市域全体の二酸化炭素排出実質ゼロ【ゼロカーボンシティ】の実現を目指す                                                                                                                                                                                  |
| 秦野市森林整備計画          | 令和5年3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○本市における森林・林業の現状と課題を踏まえた施策の方向性などを加え、秦野のかけがえのない森林の管理・保全について、基本方針を定める</li> <li>○「森林生態系の保全・再生と水源の森林づくり」、「森林資源の持続可能な利用と地域産業づくり」、「森林とのふれあいと市民参加の森林づくり」の3つの視点から基本施策を定め、森林づくりを進める</li> </ul> |
| 秦野市景観形成基本<br>計画    | 令和5年4月 | ○秦野の景観資源である表丹沢の「山並み景観」をはじめ、「里山・田園景観」「水辺景観」「歴史・文化の景観」「街の景観」等に関して、引き続き良好な景観を守りながら更なる魅力を発信し、誇りと愛着ある景観まちづくりを推進                                                                                                                  |
| ネイチャーポジティブ宣<br>言   | 令和7年3月 | ※ネイチャーポジティブ宣言が行われたら、その内容を記載する予定です。                                                                                                                                                                                          |

### (3) 前計画の進捗状況

平成 19(2007)年に策定した「秦野市みどりの基本計画」(以下、「前計画」という)における、みどりの将来像「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」の実現に向けて、緑地の保全及び緑化の目標を掲げ、みどりの施策を推進してきました。目標の達成状況と施策の進捗状況を以下に示します。

#### ア 前計画の目標達成状況

##### (7) 緑地の確保目標水準

緑地の各目標水準は、市街化区域面積に対する割合 15%を達成しています。その他の項目については、未達成であるものの達成率は概ね90%以上で進捗しています。

都市計画人口一人当たりの都市公園の敷地面積(都市公園)については、目標値 8.49 m<sup>2</sup>/人に対して令和5年度実績は 6.59 m<sup>2</sup>/人と達成率 77.6%にとどまっています。

| 項目                      |                               | 現在値<br>(令和5年度実績)        | 前計画<br>令和7年目標値          | 達成率    |
|-------------------------|-------------------------------|-------------------------|-------------------------|--------|
| 緑地の確保目標水準               | 市街化区域面積に対する割合 A               | 15%                     | 15%                     | 100.0% |
|                         | 都市計画区域面積に対する割合 B              | 72%                     | 74%                     | 97.3%  |
| 都市計画区域人口一人当たりの都市公園の敷地面積 | 都市公園等<br>(都市公園以外の公共施設緑地を含む面積) | 24.83 m <sup>2</sup> /人 | 26.60 m <sup>2</sup> /人 | 93.4%  |
|                         | 都市公園                          | 6.59 m <sup>2</sup> /人  | 8.49 m <sup>2</sup> /人  | 77.6%  |
| 都市緑化の目標                 | 施設緑地                          | 789.84 ha               | 802.96 ha               | 98.4%  |
|                         | 地域制緑地                         | 6,930.51 ha             | 6,941.63 ha             | 99.8%  |
|                         | 合計(重複 105.64haを除く)            | 7,614.70 ha             | 7,638.94 ha             | 99.7%  |

$$A = \frac{\text{令和7年の市街化区域内の緑地確保目標量}}{\text{令和7年の市街化区域面積}}$$

$$B = \frac{\text{令和7年の都市計画区域内の緑地確保目標量}}{\text{令和7年の都市計画区域面積}}$$

##### (1) 緑地別の目標

緑地別の目標値を達成した項目は、運動公園、風致公園、都市緑地、公共施設緑地のほぼすべての項目、環境創出行為(プレイロット)、生き物の里等となっています。特に、環境創出行為(プレイロット)、生き物の里は目標値を上回る達成状況となっています。

反対に、近隣公園、地区公園、歴史公園、広域公園、特別緑地保全地区につ

いては達成率が低く、当初目標として定めていた内容と現状のニーズが合っていない可能性が考えられるため、整備方針を見直す必要があると言えます。

| 項目    |          |                   |                    | 現在値<br>(令和5年度実績) | 前計画<br>令和7年目標値 | 達成率    |
|-------|----------|-------------------|--------------------|------------------|----------------|--------|
| 施設緑地  | 都市公園     | 住区基幹公園            | 街区公園               | 15.19 ha         | 16.08 ha       | 94.5%  |
|       |          |                   | 近隣公園               | 3.33 ha          | 7.33 ha        | 45.4%  |
|       |          |                   | 地区公園               | 6.82 ha          | 11.92 ha       | 57.2%  |
|       |          | 都市基幹公園            | 総合公園               | 0.00 ha          | 0.00 ha        | —      |
|       |          |                   | 運動公園               | 17.75 ha         | 17.75 ha       | 100.0% |
|       |          | 特殊公園              | 風致公園               | 0.66 ha          | 0.66 ha        | 100.0% |
|       |          |                   | 歴史公園               | 1.02 ha          | 7.92 ha        | 12.9%  |
|       |          | 広域公園              |                    | 36.10 ha         | 50.83 ha       | 71.0%  |
|       |          | 都市緑地              |                    | 25.05 ha         | 25.05 ha       | 100.0% |
|       | 公共施設緑地   | 緑地                |                    | 2.20 ha          | 2.20 ha        | 100.0% |
|       |          | 広場                |                    | 5.46 ha          | 5.46 ha        | 100.0% |
|       |          | 市民農園              |                    | 9.99 ha          | 9.98 ha        | 100.1% |
|       |          | 農村公園              |                    | 1.10 ha          | 1.10 ha        | 100.0% |
|       |          | 教育施設              |                    | 52.02 ha         | 52.02 ha       | 100.0% |
|       |          | 河川緑地              |                    | 87.58 ha         | 87.58 ha       | 100.0% |
|       |          | その他               |                    | 134.75 ha        | 135.07 ha      | 99.8%  |
|       | 地民間施設緑   | 環境創出行為            | 環境創出行為<br>(プレイロット) | 5.44 ha          | 4.86 ha        | 111.9% |
|       |          |                   | 環境創出行為<br>(緑地)     | 29.31 ha         | 30.04 ha       | 97.6%  |
|       |          | その他               |                    | 318.88 ha        | 337.10 ha      | 94.6%  |
| 地域制緑地 | 法によるもの   | 特別緑地保全地区          |                    | 0.00 ha          | 27.67 ha       | 0.0%   |
|       |          | 生産緑地地区            |                    | 91 ha            | 100 ha         | 91.1%  |
|       |          | 国定公園              |                    | 3,938 ha         | 3,938 ha       | 100.0% |
|       |          | 農業振興地域農用地区域       |                    | 678.37 ha        | 695.10 ha      | 97.6%  |
|       |          | 保安林区域             |                    | 3,721 ha         | 3,719 ha       | 100.1% |
|       | 条例等によるもの | 自然公園              |                    | 290 ha           | 290 ha         | 100.0% |
|       |          | 自然環境保全地域          |                    | 167.10 ha        | 167.10 ha      | 100.0% |
|       |          | 樹林保全地区            |                    | 9.27 ha          | 10.36 ha       | 89.5%  |
|       |          | 保存樹木              |                    | 30 本             | 32 本           | 93.8%  |
|       |          | 生垣の設置             |                    | —                | 1.52 ha        | —      |
|       |          | 生き物の里             |                    | 2.86 ha          | 2.70 ha        | 105.7% |
|       |          | かながわのナショナル・トラスト緑地 |                    | 6 ha             | 0 ha           | —      |

#### (ウ) 里山の保全再生整備の目標

緑地別の目標値を達成した項目は、地域水源林長期施業受委託事業で目標値を上回る達成状況となっています。

反対に、ふるさと里山整備事業、里山ふれあいの森づくり事業については達成率が低い状況です。里山は本市の地域特性として重要な要素であることから、整備方針を見直し、現在のニーズにあった里山づくりを進める必要があると言えます。

|                       |                    | 現在値<br>(令和5年度実績) | 前計画<br>令和7年目標値 | 達成率    |
|-----------------------|--------------------|------------------|----------------|--------|
| 委託による<br>整備           | ふるさと里山整備事業         | 7.70 ha          | 42.24 ha       | 18.2%  |
|                       | 地域水源林長期<br>施業受委託事業 | 30.50 ha         | 24.61 ha       | 123.9% |
| ボランティア<br>団体による<br>整備 | 里山ふれあいの<br>森づくり事業  | 31.95 ha         | 43.59 ha       | 73.3%  |
| 合計                    |                    | 70.15 ha         | 95.26 ha       | 73.6%  |

## イ 前計画の施策の進捗状況

前計画で設定した施策ごとの進捗状況について、下表の評価基準にのっとり、関係部署・関係機関において施策評価を行いました。

68 施策中、「◎:100%以上達成」が 21 件(30.9%)、「○:60~100%達成」が 33 件(48.5%)、「△:30~60%達成」が 5 件(7.4%)、「×:0~30%達成」が 4 件(5.9%)、「－:評価不能」が 5 件(7.4%)となっています。

### 【評価基準】

- ◎:100%以上達成(現状維持又は完了(削除))
- :60~100%達成(一部見直し又は現状維持)
- △:30~60%達成(要見直し又は一部見直し必要)
- ×:0~30%程度達成(要見直し)
- －:評価不能

## (ア) みどりの基本計画

| 項目                | 評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |             |            |           |            | 合計           |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------|-----------|------------|--------------|
|                   | ◎                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ○           | △          | ×         | －          |              |
| (1) 施設緑地の整備目標及び方針 | 2<br>11.8%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 11<br>64.7% | 2<br>11.8% | 0<br>0.0% | 2<br>11.8% | 17<br>100.0% |
| 現況と課題             | <p>・都市公園に関する施策は、概ね順調に進捗しています。施設の更新が必要な公園が増加していることから、計画的な更新を行い、誰もが安心して快適に利用できる公園の提供に努める必要があります。特に、桜土手古墳公園は、園内樹木の樹勢の衰えが見られるものがあり、適正な対応が必要です。</p> <p>・公共施設緑地については、概ね順調に進捗しています。特に、市民農園については、目標を上回る整備ができました。河川緑地、震生湖周辺については、緑地範囲を明確にするなど、維持管理制に配慮しつつ可能な範囲で緑化に取り組む必要があります。</p> <p>・民間施設緑地については、環境創出行為に対する緑化指導を行い、目標を上回る達成状況となっています。</p> <p>・公園愛護団体や公園美化ボランティア団体等の団員の高齢化により、参加人数の減少や管理範囲の縮小等がみられます。ボランティアの活動活性化が課題となっています。</p> |             |            |           |            |              |

| 項目                 | 評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |      |       |      | 合計     |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|-------|------|--------|
|                    | ◎                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ○     | △    | ×     | —    |        |
| (2) 地域制緑地の整備目標及び方針 | 4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 6     | 0    | 2     | 0    | 12     |
|                    | 33.3%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 50.0% | 0.0% | 16.7% | 0.0% | 100.0% |
| 現況と課題              | <p>・葛葉川ふるさと峡谷等の特別緑地保全地区の指定、かながわのナショナル・トラスト緑地の特別緑地保全地区の指定については、検討が進みませんでした。自然共生サイトなどの新たな制度等の活用を視野に施策を抜本的に見直す必要があります。</p> <p>・生産緑地地区、農業振興地域農用地区域については、農業従事者の高齢化による優良農地の減少が課題となっています。農地バンクを通じた担い手確保や農地の集積・集約化により、荒廃農地の発生防止・解消・有効利用を実施していく必要があります。</p> <p>・国定公園、自然公園、自然環境保全地域については、自然再生の取組みにより、効果が少しずつ現れていますが、丹沢大山全域で効果が現れるまでには至っていません。今後も長期的に取り組むことが必要であり、限りある予算の中で老朽化が進む自然公園施設の整備や維持管理を行っていく必要があります。</p> <p>・保安林区域については、順調に進捗しています。今後も市内に残る保安林の公益的機能が発揮できるよう、管理や整備方針について検討する必要があります。</p> <p>・樹林保全地区については、所有者の高齢化や樹木の成長に伴い適正な管理が困難となっています。引き続き、3者協定による整備を進めるとともに、奨励金のあり方を見直す必要があります。</p> <p>・生垣の設置については、平成30年度(2018 年度)に「秦野市生垣設置奨励補助金」が終了し、施策は完了済みとなっています。</p> <p>・生き物の里については、令和6年(2024 年)3月に新たに1か所を追加指定し、合計7か所と順調に進捗しています。生き物の里管理団体が高齢化により適正な管理が難しくなっていることから、新たな管理団体の確保や管理手法の確立が課題となっています。</p> |       |      |       |      |        |

| 項目          | 評価                                                                                            |       |       |      |      | 合計     |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|------|--------|
|             | ◎                                                                                             | ○     | △     | ×    | —    |        |
| (3) 都市緑化の推進 | 6                                                                                             | 5     | 2     | 0    | 1    | 14     |
|             | 42.9%                                                                                         | 35.7% | 14.3% | 0.0% | 7.1% | 100.0% |
| 現況と課題       | <p>・公共・公益施設の緑化については、概ね順調に進捗しています。植樹時期が不明な樹木の管理や、植栽整備の維持管理の負担が大きくなっており、維持管理しやすい樹木の検討が必要です。</p> |       |       |      |      |        |

- ・民有地の緑化については、工業系地域、商業系地域の緑化は概ね順調に進捗しています。住居系地域の緑化については、特に規制がなく個人に委ねる他ない状況です。住民への啓発等により緑化を促していく必要があります。
- ・市民参加の状況については、団体の育成・支援、啓発事業、環境教育・学習等を実施しています。もりりんグッズやもりりんスタンプなどの活用、「はだのみどりの月間(4月29日～5月31日)」を始めとした各種の緑化イベントを継続して実施し、市民の緑化意識の高揚を図る必要があります。

| 項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 評価    |       |       |       |      | 合計     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|------|--------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ◎     | ○     | △     | ×     | －    |        |
| (4) はだの一世紀の森林づくり構想                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 3     | 2     | 1     | 1     | 0    | 7      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 42.9% | 28.6% | 14.3% | 14.3% | 0.0% | 100.0% |
| <b>現況と課題</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |       |       |       |      |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山林の保全再生については、「はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会」において、地区別での意見交換会や全体視察研修、里地里山フォーラム等を実施し、概ね順調に進捗しています。里山保全活動団体の会員の高齢化により活動者数の減少や活動範囲の縮小が進んでいることから、里山保全活動団体への支援を継続する必要があります。</li> <li>・林業の育成については、本市からは良質な木材が産出されるものの市内には製材所がなく、多くの木材が市外から購入されている状況です。木材を使用することで森林資源が循環され、持続的な森林管理につながることを伝えるため、多くの市民に生涯を通じて木とふれあう機会を創出する「木のある暮らしづくり事業」を展開する必要があります。</li> <li>・都市緑化については、開発行為を伴わない民地であり行政が介入することが難しいため、施策の方向性について抜本的に見直す必要があります。</li> </ul> |       |       |       |       |      |        |

| 項目                                                                                                                                  | 評価    |       |      |       |       | 合計     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|-------|-------|--------|
|                                                                                                                                     | ◎     | ○     | △    | ×     | －     |        |
| (5) 重点的に緑地の保全に配慮が必要な地区(保全配慮地区)                                                                                                      | 2     | 3     | 0    | 1     | 2     | 8      |
|                                                                                                                                     | 25.0% | 37.5% | 0.0% | 12.5% | 25.0% | 100.0% |
| <b>現況と課題</b>                                                                                                                        |       |       |      |       |       |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・保全配慮地区については、地区の設定にまでは至りませんでしたが、渋沢丘陵の震生湖周辺において地域市民と連携して樹木伐採や草刈などを行い、広場の整備を実施しました。</li> </ul> |       |       |      |       |       |        |

・頭高山周辺整備事業において、ナラ枯れ樹木の伐採、頂上整備、ウッドチップ舗装、階段・手すりの設置を行い、ハイカーが安心して歩くことができるように整備を行いました。また、地権者の協力を得て、イロハモミジやミツバツツジなど6種の植栽を行いました。今後もハイキングコース沿いや観光地等における栽培地を増やし、事業効果を高める必要があります。

| 項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 評価    |       |      |      |      | 合計     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|------|------|--------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ◎     | ○     | △    | ×    | —    |        |
| (6) 重点的に緑化の推進を図る地区(緑化重点地区)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 1     | 3     | 0    | 0    | 0    | 4      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 25.0% | 75.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| <b>現況と課題</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |       |      |      |      |        |
| <p>・水無川遊歩道については、市民中心に活動するモデル花壇の整備、本庁舎正門でモデル花壇 PR 用植栽等を実施しました。また、景観まちづくり条例に基づく庭先協定制度を活用し商店街に花苗プランターの設置補助を実施しました。</p> <p>・秦野駅南部地区周辺については、今泉荒井地区の土地区画整理事業において、今泉あらい湧水公園の整備により湧水の保全が図られています。今泉地区の土地区画整理事業では取組実績は無い状況です。今後、土地区画整理事業の未実施区域において、緑化の推進を図る必要があります。</p> <p>・秦野市カルチャーパーク周辺については、令和4年度(2022年度)から指定管理者による管理運営を行っています。カルチャーパーク内のバラ園での定期的な剪定、施肥の実施、園内樹木の定期的な剪定等を実施しています。みずなし川緑地の桜並木は、植栽帯にあることから、根の生育不良により病気に感染しやすく、管理が課題となっています。</p> |       |       |      |      |      |        |

#### (イ) 生物多様性地域戦略

| 項目                                                                                                                                      | 評価    |       |      |      |      | 合計     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|------|------|--------|
|                                                                                                                                         | ◎     | ○     | △    | ×    | —    |        |
| (1) 生物多様性の保全への取組み                                                                                                                       | 2     | 1     | 0    | 0    | 0    | 3      |
|                                                                                                                                         | 66.7% | 33.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| <b>現況と課題</b>                                                                                                                            |       |       |      |      |      |        |
| <p>・動植物の情報収集や保護対策については、雑木林、公園、神社(動物・植物)24箇所、水田、生き物の里等(動物・植物)21箇所の生物多様性調査を年2回実施しています。希少生物の確認は、年2回の調査では確認できない場合があります、評価の仕方が課題となっています。</p> |       |       |      |      |      |        |

- ・環境ボランティア団体への支援については、団体の運営補助や活動支援などを定例的に行っています。環境ボランティア団体の会員の高齢化、ボランティア活動への参加者の固定化が課題となっています。
- ・緑地の保全・再生対策や緑地の創造については、環境創出行為に対して、秦野市まちづくり条例に基づく緑化指導(プレイロット及び緑地の設置)を行いました。今後は、時代にあった指導内容に変更していく必要があります。

| 項目                  | 評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |       |      |      |      | 合計     |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|------|------|--------|
|                     | ◎                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○     | △    | ×    | —    |        |
| (2) 生物多様性の社会浸透への取組み | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 2     | 0    | 0    | 0    | 3      |
|                     | 33.3%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 66.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 現況と課題               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然とのふれあい活動について、くずはの家では、つどいをはじめ月例観察会など各種イベントを行っています。参加者が以前に比べ低年齢になっている傾向が見られているため、指導員も対象者のニーズに合わせた内容を考える必要があります。</li> <li>・環境学習の実施については、市の各部署や民間企業、大学、環境団体などが持っている環境に関する情報や知識、技術などを活用し、幼保園・小学校の授業などを通じて子どもたちに環境学習「はだのエコスクール」を行いました。学校では学べない、体験できないようなプログラムの人気があることから、時代にあったプログラムを引き続き開拓していく必要があります。</li> <li>・継続的な美化活動については、7月の河川浄化月間等を通じて、河川浄化に対する意識を啓発しました。参加者数が減少傾向にあること、河川浄化月間の7月開催は熱中症への危険性が高まっていることから、開催時期や開催場所を見直すとともに、時代にあった活動内容を検討していく必要があります。</li> </ul> |       |      |      |      |        |

## (4)市民のみどりに対する意識

### ア 調査の概要

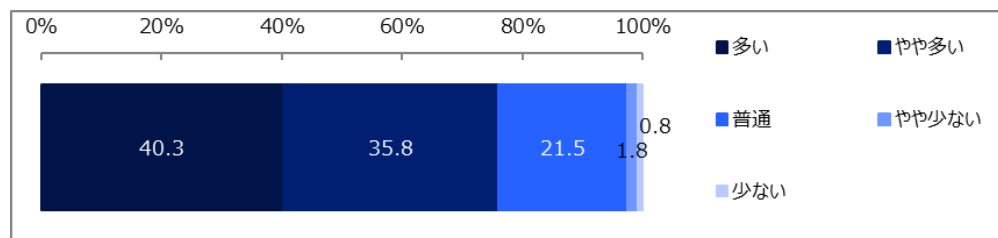
回収期間:2024/10/18(金)~10/28(月)

回収総数:400 名

### イ 調査結果

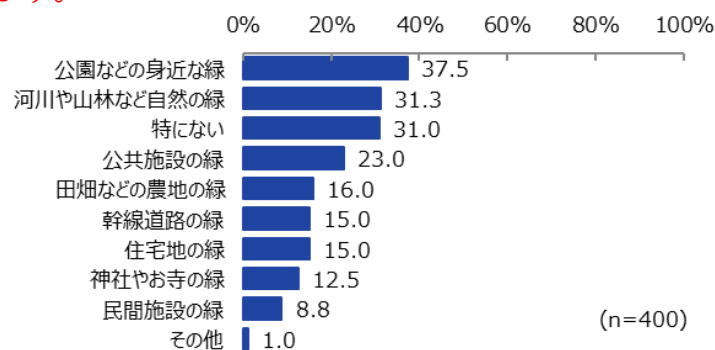
秦野市全体のみどりの量について、どのように感じていますか。(1つに○)

秦野市全体のみどりの量について、「多い」、「やや多い」と 76.1%の方が感じています。



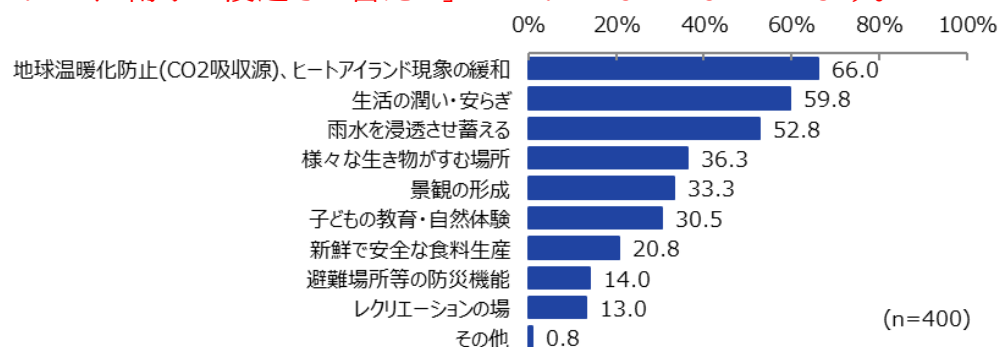
今後、充実させてほしい・増やしてほしいみどりは何ですか。(あてはまるものすべて)

今後、充実させてほしい・増やしてほしいみどりについて、「公園などの身近な緑」が 37.5%と最も多く、次いで「河川や山林など自然の緑」が 31.3%、「特にない」が 31.0%などとなっています。



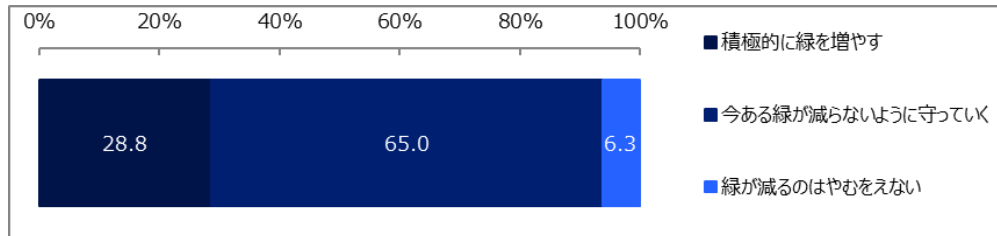
みどりの役割で大切だと思うのは何ですか。(あてはまるものすべて)

みどりの役割で大切だと思うことについて、「地球温暖化防止(CO2 吸収源)、ヒートアイランド現象の緩和」が 66.0%と最も多く、次いで「生活の潤い・安らぎ」が 59.8%、「雨水を浸透させ蓄える」が 52.8%などとなっています。



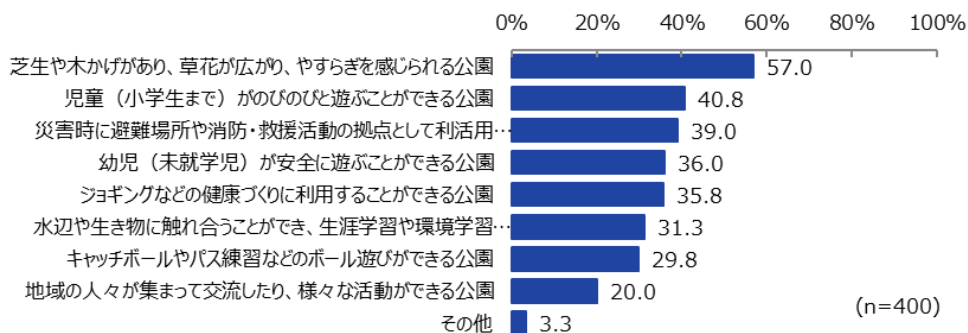
市のみどりについて今後どのようにすべきだと思いますか。(1つに○)

市のみどりの今後について、「今ある緑が減らないように守っていく」が 65.0%と最も多く、次いで「積極的に緑を増やす」が 28.8%、「緑が減るのはやむをえない」が 6.3%となっています。



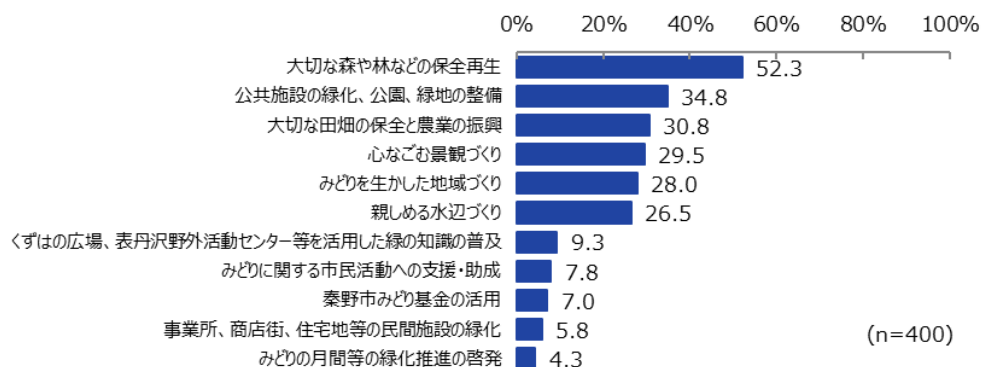
市内にどのような公園が増えるといいですか。(あてはまるものすべて)

市内にどのような公園が増えるといいかについて、「芝生や木かげがあり、草花が広がり、やすらぎを感じられる公園」が 57.0%と最も多く、次いで「児童(小学生まで)がのびのびと遊ぶことができる公園」が 40.8%、「災害時に避難場所や消防・救援活動の拠点として利活用ができる公園」が 39.0%などとなっています。



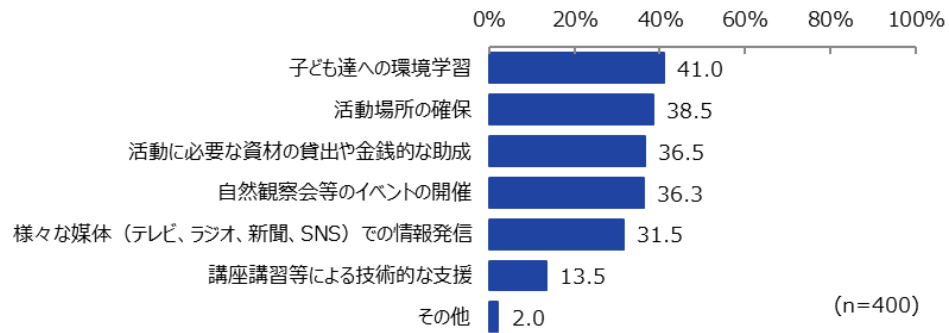
「秦野市みどりの基本計画～緑が育む水とみどりあふれるふるさと秦野～」の取組で重要だと思うことは何ですか。(あてはまるものすべて)

秦野市みどりの基本計画の取組で重要だと思うことについて、「大切な森や林などの保全再生」が 52.3%と最も多く、次いで「公共施設の緑化、公園、緑地の整備」が 34.8%、「大切な田畑の保全と農業の振興」が 30.8%などとなっています。



生物多様性を保全するためには、どのような取組が効果的だと思いますか。  
(あてはまるものすべて)

生物多様性を保全するために、効果的だと思う取組について、「子ども達への環境学習」が41.0%と最も多く、次いで「活動場所の確保」が38.5%、「活動に必要な資材の貸出や金銭的な助成」が36.5%などとなっています。



## 2 みどりに関する課題とその対応への視点

野鳥・昆虫・小動物などの生き物が暮らす自然と人とが共生できる環境としての「みどり」を保全するためには、みどりの持つ多様な機能の発揮、魅力あるみどりの活用、協働の仕組みづくりが必要です。

### 課題1 みどりの持つ多様な機能の発揮

市街地の拡大による森林の減少、林業や農業の低迷による手入れ不足森林の増加などにより、みどりを構成する重要な要素である樹木が減ってきています。

みどりは、良好な都市環境の保全、防災、自然豊かなレクリエーションの場、良好な都市景観の形成、グリーンインフラ等の多様な機能を有しています。

また、地球温暖化、気候変動、生物多様性の損失といった深刻な課題に世界中が直面するなか、都市の緑地を含む自然は、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラル等に資するものです。

これらのみどりが持つ多様な役割を活用し、地域が抱えている課題の解決に取り組む必要があります。

### 課題2 魅力あるみどりの活用

本市には、表丹沢などのみどりを代表する地域資源が多くあります。これらの地域資源を地域の魅力として捉え、魅力ある質の高いみどりのまちづくりを進める必要があります。

街中の農地・緑地等の宅地化等によって、緑と緑の間隔が広がり、点在する緑と面的な緑をつなぐ「みどりネットワーク」が分断されてきています。

水無川をはじめとする河川周辺の公園や歩道の植栽等を整備・保全し、これを連携させることにより、「水とみどりのふれあいネットワーク」の形成を進める必要があります。

### 課題3 協働の仕組みづくり

緑化に係る人的資源や財源には限りがあるため、より効果的な手法や、市民・事業者・団体など様々な主体を巻き込んだ協働の仕組みづくりを進める必要があります。

緑の保全と育成は、市民一人ひとりがその重要性について理解し、身近なことからでも実践していく必要があります。引き続き、子どもから大人までみどりの保全や生物多様性に関する理解を促すための環境教育を推進していく必要があります。

# 秦野市みどりの基本計画策定に係る考え方

## 社会情勢または国の動向の変化

| 地球温暖化                                                                          | 気候変動・災害激甚化 | 生物多様性への配慮                                                                                           | 既存ストックの老朽化 | 人口減少・超高齢社会                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>環境への負荷が小さい<br/>カーボンニュートラル都市</p> <p>・CO<sub>2</sub> 吸収源としての役割を担うみどりの量の確保</p> |            | <p>人と自然が共生するネイチャーポジティブを実現した都市</p> <p>・生物多様性に配慮したエリアの拡大、生態系ネットワークの確保</p> <p>・適切な樹林更新等によるみどりの質の向上</p> |            | <p>Well-being が実感できる水と緑豊かな都市</p> <p>・精神的・身体的な健康の増進、コミュニティの醸成</p> <p>・グリーンインフラによる災害にも対応した持続可能な都市づくり</p> |

## 秦野市の上位・関連計画

- 秦野市総合計画はだの 2030 プラン:人口規模の想定 令和12年(2030 年)157,000 人名水の里の豊かな自然と共生し安全・安心に暮らせるまちづくりを目指す
- 秦野市都市マスタープラン:都市の持続可能性の確保、広域的交通環境への対応、自然環境の保全、安全・安心・快適性の確保、景観に配慮したまちづくり
- 第3次秦野市環境基本計画:地域循環共生圏の構築、担い手の確保・育成
- 秦野市地球温暖化対策実行計画:2050年ゼロカーボンシティへの挑戦
- 秦野市地下水総合保全管理計画:名水百選「秦野盆地湧水群」をはじめとする湧水・地下水の量と質の保全、健全な水循環の維持、名水に身近に接することができる親水施設の整備
- ネイチャーポジティブ宣言:令和7年(2025 年)3月予定**

## 秦野市のみどりの現況

ネイチャーポジティブキャラクター  
ネボたん



### ○みどりの減少

- ・緑地面積【平成27年】7,576.6ha ⇒【令和2年】7,428.8ha(147.8ha 減少)
- ⇒【課題】現存するみどりを守りつつ、質の高いみどりの確保。樹林の適正管理・活用。自然共生サイトなどの新しい制度などによる緑地保全等の推進。

### ○生物多様性に配慮した環境づくり

- ・生き物の里【令和6年】7か所
- ・準・生き物の里(はだの生き物ベース)の設定
- ⇒【課題】生き物の里の環境維持、水とみどりのふれあいネットワークの形成、はだの生き物ベースの周知

### ○みどりの活動への参加状況

- ・公園美化ボランティア(里親制度)団体数 【令和5年9月末】59 団体
- ⇒【課題】活動を継続するための支援、担い手の育成・活用

## 秦野市民の意向

### 【アンケート調査結果】

- みどりの基本計画の中で重要だと思う取組
- 【第1位】大切な森や林などの保全再生
- 【第2位】公共施設の緑化、公園、緑地の整備
- 【第3位】大切な田畑の保全と農業の振興
- 芝生・木かげ・草花があり、やすらぎを感じる公園に高い需要
- 生物多様性を保全するために、子ども達への環境学習を希望する割合が高い

### 【生物調査員ヒアリング結果】

- 秦野市本来の生態系や生物の生息・生育環境など、生物多様性の意義を広く市民へ普及啓発する必要あり
- ヤマビル、ジャンボタニシの駆除をする際には、他の生物・植物に配慮した方法を希望
- 調査員の高齢化により担い手が不足しており、担い手の育成、活動への支援が必要

## 計画策定における課題とその対応への視点

- みどりの持つ多様な機能の発揮：自然環境保全や生き物が生息・生育する場所としてのみどりの確保はもとより、CO<sub>2</sub>吸収源としてのみどりの確保、グリーンインフラの活用、コミュニティ活動や健康づくりの場としてのみどりの活用など、みどりの持つ多様な役割に着目したまちづくりを進めます。
- 魅力あるみどりの活用：表丹沢などの秦野市の地域特性を活かし、魅力ある質の高いみどりのまちづくりを進めます。
- 協働の仕組みづくり：緑化に係る人的資源や財源には限りがあるため、より効果的な手法や、市民・事業者など様々な主体を巻き込んだ協働の仕組みづくりを進めます。

## 本計画がめざす、みどりの目標像(案)

「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」



※秦野市みどりの基本計画には「秦野市生物多様性地域戦略」が包括されています。

## 基本方針(案)

### みどりを 守ろう

- ・森や林、田畑を守り、ネイチャーポジティブを実現したまちづくりを進めます。  
キーワード：樹林保全地区、地域性緑地、自然環境保全地域、農業振興地域、自然共生サイト、準・生き物の里(はだの生き物ベース)

### みどりを 創ろう

- ・まちのなかの緑を増やし、心なごむ景観をつくります。  
キーワード：公園、施設緑地、まちづくり条例、景観条例、緑化重点地区

### みどりを 知ろう

- ・緑化や生物多様性の知識について普及・啓発する環境教育を進めます。  
キーワード：環境教育、みどり月間、緑化思想普及

### みどりを 生かそう

- ・水とみどりのふれあいネットワークをつくります。  
キーワード：水辺緑地整備、グリーンインフラ、災害レジリエンス、雨水貯留

### みどりと 暮らそう

- ・市民、事業者等の多様な主体と協働してみどりの活動を進めます。  
キーワード：公園里親制度、緑化ボランティア、秦野市みどり基金

## 第3章 計画の推進

### 1 計画の基本方針

基本理念、みどりの将来像、基本方針は現行計画を踏襲する方向で進めていく予定です。

#### (1) 基本理念及びみどりの将来像

##### ア 基本理念

本市は、四季折々に豊かな表情を持つ丹沢山地や渋沢丘陵に囲まれて、そこに源を発する諸河川、そして、多くの先人によって築かれた伝統と文化を有する自然の豊かなみどりの中に都市(まち)があるという理念のもと、この豊かで美しい自然を背景に、水やみどりとのふれあいを大切にしながら、自然と調和した快適で生活しやすい都市の創造を図ります。

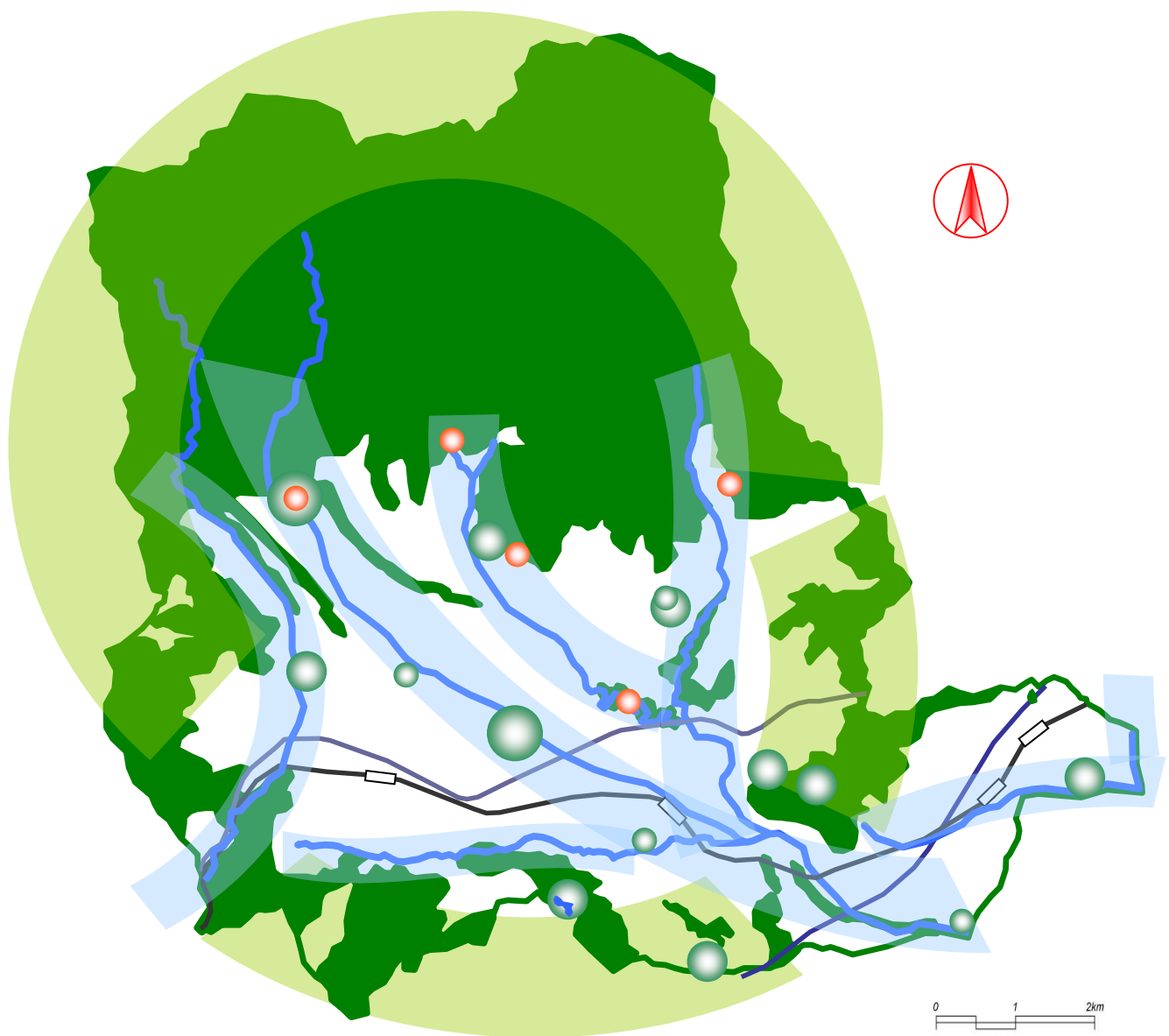
##### イ みどりの将来像

### 「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」

秦野市の誇る名水と様々な動植物の生息する環境を育む重要な構成要素として、緑があります。本市の掲げる都市像である「水とみどりに育まれ誰もが輝く暮らしよい都市(まち)」の創造に向けて、自然と人が共生するみどりを目指し、身近な街の緑とともに丹沢山地及び渋沢丘陵並びに里山という市街地を取り巻く緑を守り育てていきます。



みどりの将来像図  
「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」



| 凡 例                                                                                 |              |                                                                                     |                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|  | 骨格的な緑地(樹林地)  |  | 緑の拠点(都市公園・公共施設緑地) |
|  | 骨格的な緑地(河川空間) |  | 緑の拠点(緑とふれあう施設)    |
|  | 良好な樹林地       |  | 河川                |

## (2)基本方針

自然に恵まれた良好な緑を守り育て、自然と人間との共生を図るために、緑の積極的な保全・再生・創造に努め、今後本市が目指すべきみどりの将来像「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」を実現するための都市緑化の総括的目標として基本方針を定めます。

### ア みどりを守ろう

緑は、私たちにうるおいとやすらぎを与えるとともに多種多様な生物の貴重な生息空間の重要な構成要素でもあります。また、地震などの災害時に避難路や避難地になるほか、火災の延焼を防止し、消火活動の拠点になるなど、都市の安全性を確保するうえで大変貴重な防災機能を果たし、私たちの生命・財産を守るものです。私たちの生活を守り、豊かにする緑を保全していきます。

### イ みどりを創ろう

みどり豊かなまちづくりのためには、みんなで身近なところから緑を育てることが大切です。自宅の庭に草花が咲き、道には緑があふれ、市民が身近にみどり豊かな自然とふれあえるまちづくりを進めていきます。

### ウ みどりを知ろう

緑や自然の大切さを知るためには、書物から得た知識だけでなく、緑にふれ、緑が語る自然を実感することが大切です。市民の意識に応じて普及・啓発を進め、緑の保全及び創造への行動に結びつくような緑化意識の高揚を図っていきます。

### エ みどりを生かそう

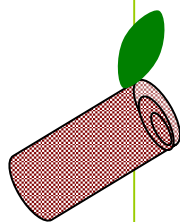
秦野盆地は、「名水百選」の地に選ばれているほど、豊かな湧水や地下水に恵まれています。水は緑を育て、また、緑は水を蓄えるとともに雨水をきれいにするろ過機能などをもっています。緑のすべての働きが水そのものにかかわる現象であり、このことから“緑は水なり”と言えるのではないのでしょうか。この大切な働きを伝えるような親しみある水辺空間をつくるとともに、野生生物の生息に貢献するように、ビオトープ機能を有する緑や水辺のネットワーク化を図っていきます。

## オ みどりと暮らそう

みどり豊かなまちづくりのためには、行政の努力とともに市民の自主的な取り組みが不可欠です。市民参加によるみどりのまちづくりのため、身近な活動を促進します。また、緑の保全・再生・創造を推進するための財源であるみどり基金の一層の充実と、その効果的な活用を図っていきます。

本ページの施策の方向に基づき、今後第4章以降の施策の体系と内容を整理していく予定です。

### (3) 施策の方向



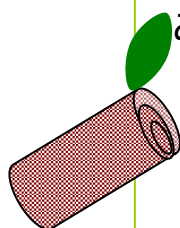
#### みどりを守ろう

##### ○ 大切な森や林を守ります

- ・ 既存樹林、樹木の保全(樹林保全地区、保存樹木)
- ・ 寺社林、屋敷林の保全
- ・ 地域制緑地の指定(国定公園・県立自然公園、自然環境保全地域等)
- ・ 里地里山の保全再生
  - ・ 水源の森林づくり
  - ・ 林業の振興
- ・ **自然共生サイトの指定**
- ・ **準・生き物の里(はだの生き物ベース)の設定**

##### ○ 大切な田畑を守ります

- ・ 農業の振興(生産緑地、農業振興地域、市民農園、グリーンツーリズム)



#### みどりを創ろう

##### ○ 誰もがふれあえる緑を増やします

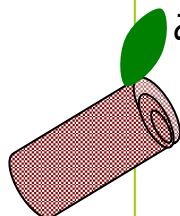
- ・ 公共施設の緑化推進(公共施設緑化、道路・駅前広場緑化、多自然川づくり)
- ・ 公園、緑地の整備
- ・ はだの一世紀の森林づくり構想(里山再生、森林づくり)

##### ○ みどりあふれる都市(まち)をつくれます

- ・ まちづくり条例及び景観まちづくり条例による緑化指導
- ・ 事業所、商店街、住宅地の緑化推進
- ・ 緑化重点地区の指定

##### ○ 心なごむ景観をつくれます

- ・ 緑豊かな景観形成



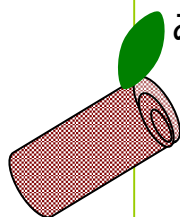
#### みどりを知ろう

##### ○ 緑への関心を深め、ふれあいを進めます

- ・ 緑化推進の啓発(みどりの月間、市の木市の花、誕生記念樹)

##### ○ 緑の知識や大切さを教えます

- ・ 緑化思想の普及啓発(くずはの広場・養毛自然観察の森)
- ・ 里地里山の保全再生及び林業思想の普及  
(里山ふれあいセンター・表丹沢野外活動センター)



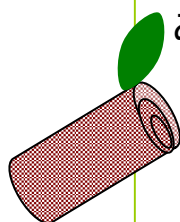
#### みどりを生かそう

##### ○ 親しめる水辺をつくれます

- ・ みどりネットワークの形成(生き物の里、水辺緑地整備、河川緑地)
- ・ 名水百選「秦野盆地湧水群」の保全、整備

##### ○ 緑を地域のまちづくりに生かす

- ・ 地域のシンボリックな樹木を景観重要樹木に指定
- ・ **グリーンインフラ、雨水浸透の活用による災害レジリエンスの向上**



#### みどりと暮らそう

##### ○ 市民によるみどりのまちづくりを応援します

- ・ 活動団体への助成(公園愛護会、公園里親制度)

##### ○ 協働による施策を進めます

- ・ 緑化ボランティア活動の場の提供
- ・ かながわのナショナル・トラスト緑地保存契約
- ・ 秦野市みどり基金の充実と活用

## 2 緑地の保全及び緑化の目標

### (1) 計画のフレーム

#### ア 計画対象区域

| 計画対象区域名称 | 計画対象規模                        |
|----------|-------------------------------|
| 秦野都市計画区域 | 秦野市全域(103.76km <sup>2</sup> ) |

#### イ 都市計画区域人口の実績と見通し

| 年次 | 現状値            | 推計値            |                 |                 |
|----|----------------|----------------|-----------------|-----------------|
|    | 令和2年<br>(2020) | 令和7年<br>(2025) | 令和12年<br>(2030) | 令和17年<br>(2035) |
| 人口 | 164,961人       | 162千人          | 158千人           | 152千人           |

※「秦野市人口ビジョン」令和2年3月改訂の値を踏襲

### (2) 計画の目標水準

#### ア 緑地の確保目標水準

現行計画の令和7年目標値を引き続き目指す意味合いで(案)を設定しています。

目標年次における確保すべき緑地の目標量は、市街化区域面積のおよそ15%、都市計画区域面積のおよそ74%とします。

|               |                      | 現状値            | 目標値             |                 |
|---------------|----------------------|----------------|-----------------|-----------------|
|               |                      | 令和5年<br>(2023) | 令和12年<br>(2030) | 令和17年<br>(2035) |
| 緑地の確保<br>目標水準 | 市街化区域面積に<br>対する割合 A  | 15%            | 15%             | 15%             |
|               | 都市計画区域面積に<br>対する割合 B | 72%            | 74%             | 74%             |

$$A = \frac{\text{令和17年の市街化区域内の緑地確保目標量}}{\text{令和17年の市街化区域面積}}$$

$$B = \frac{\text{令和17年の都市計画区域内の緑地確保目標量}}{\text{令和17年の都市計画区域面積}}$$

#### イ 都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標水準

|                                               |         | 現状値                     | 目標値                     |                          |
|-----------------------------------------------|---------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|
|                                               |         | 令和5年<br>(2023)          | 令和12年<br>(2030)         | 令和17年<br>(2035)          |
| 都市計画区域人口<br>一人当たり面積の<br>目標水準(m <sup>2</sup> ) | 都市公園等※1 | 24.83 m <sup>2</sup> /人 | 26.60 m <sup>2</sup> /人 | 26.60 m <sup>2</sup> /人  |
|                                               | 都市公園    | 6.59 m <sup>2</sup> /人  | 8.49 m <sup>2</sup> /人  | 10.0 m <sup>2</sup> /人※2 |

※1 都市公園等は、都市公園以外の公共施設緑地を含みます。

※2 都市緑地法施行令、秦野市都市公園条例において、都市公園の住民一人当たりの敷地面積の標準は10.0 m<sup>2</sup>以上に設定されています。

現行計画の令和7年目標値を引き続き目指す意味合いで(案)を設定しています。

現行計画の令和7年目標値を引き続き目指す意味合いで(案)を設定しています。

## ウ 都市緑化の目標

|           | 現状値            | 目標値             |                 |
|-----------|----------------|-----------------|-----------------|
|           | 令和5年<br>(2023) | 令和12年<br>(2030) | 令和17年<br>(2035) |
| 施設緑地      | 789.84 ha      | 802.96 ha       | 802.96 ha       |
| 地域性緑地     | 6,930.51 ha    | 6,941.63 ha     | 6,941.63 ha     |
| 合計(重複を除く) | 7,614.70 ha    | 7,638.94 ha     | 7,638.94 ha     |

これ以上減らさない＝現状維持という意味合いで(案)を設定しています。

## (3) 里山の保全再生整備の目標

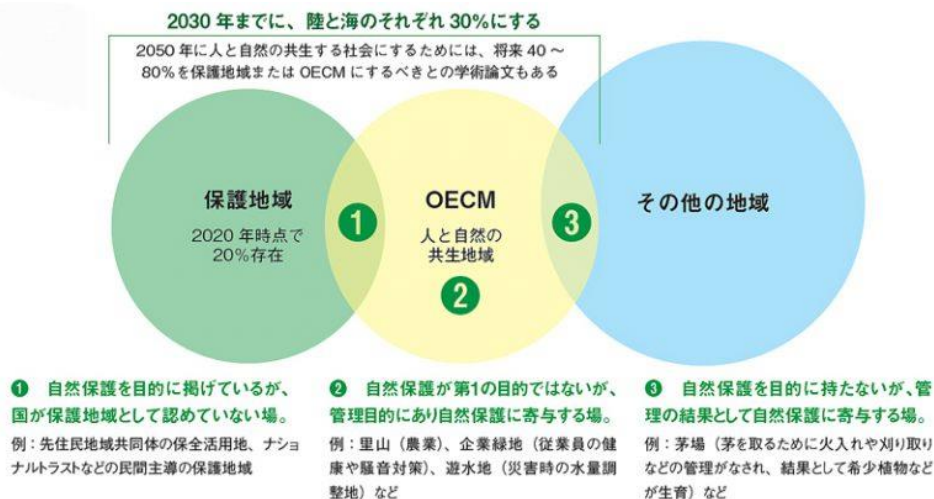
|               |               | 現状値            | 目標値             |                 |
|---------------|---------------|----------------|-----------------|-----------------|
|               |               | 令和5年<br>(2023) | 令和12年<br>(2030) | 令和17年<br>(2035) |
| 委託による整備       | ふるさと里山整備事業    | 7.70           | 7.70            | 7.70            |
|               | 地域水源林長期施業受委託事 | 30.50          | 30.50           | 30.50           |
| ボランティア団体による整備 | 里山ふれあいの森づくり事業 | 31.95          | 31.95           | 31.95           |
| 合計            |               | 70.15          | 70.15           | 70.15           |

暫定的な案として2か所と設定しています。  
自然共生サイト登録予定地等の情報が**ある場合、**  
**今後その内容を加味して設定します。**

## (4) 生物多様性に関する目標

| 年 次        | 現状値            | 目標値             |                 |
|------------|----------------|-----------------|-----------------|
|            | 令和5年<br>(2023) | 令和12年<br>(2030) | 令和17年<br>(2035) |
| OECM 箇所数※1 | 1              | 2               | 2               |

※1 Other effective area-based conservation measures の略で、国立公園等の保護地域以外で生物多様性保全に資する地域を言います。自然観察の森、里地里山、都市の緑地等がこれにあたります。日本では、「自然共生サイト」の認定区域のうち、保護地域との重複を除いた区域が OECM として国際データベースに登録されます。



OECMの3パターン(日本自然保護協会資料)